

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の設置							
フリガナ設置者	コリツガクホクホクシツカシガク 国立大学法人一橋大学							
フリガナ大学の名称	ヒツバシガク 一橋大学 (Hitotsubashi University)							
大学本部の位置	東京都国立市中二丁目1番地							
大学の目的	充実した研究基盤を確立し、新しい社会科学の探究と創造の精神のもとに、獨創性に富む知的、文化的資産を開発、蓄積し、広く公開する。実務や政策、社会や文化との積極的な連携を通じて、日本及び世界に知的、実践的に貢献する。豊かな教養と市民的公共性を備えた、構想力ある専門人、理性ある革新者、指導力ある政治経済人を育成する。							
新設学部等の目的	現代のビジネスや社会が直面する様々な課題を解決する上で、社会科学とデータサイエンスを融合させたソーシャル・データサイエンスという学術領域が注目を集めている。一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部は、社会科学とデータサイエンスの知識を融合し、社会で蓄積されるデータを用いて、ビジネスの革新や社会課題の解決に対する方策を提案・実行できる、ソーシャル・データサイエンスのゼネラリストの養成を目指す。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	ソーシャル・データサイエンス学部 (Faculty of Social Data Science) ソーシャル・データサイエンス学科 (Department of Social Data Science)	年	人	年次 人	人	学士(ソーシャル・データサイエンス) (Bachelor of Arts and Sciences in Social Data Science)	令和5年4月 第1年次	東京都国立市中二丁目1番地
	計	4	60	—	240			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>○ 学部及び研究科の設置 ソーシャル・データサイエンス研究科 修士課程 ソーシャル・データサイエンス専攻 (21) (令和4年3月意見伺い)</p> <p>○ 入学定員の変更</p> <p>商学部</p> <p>経営学科〔定員減〕 (△8)(令和5年4月)</p> <p>商学科〔定員減〕 (△9)(令和5年4月)</p> <p>経済学部</p> <p>経済学科〔定員減〕 (△17)(令和5年4月)</p> <p>法学部</p> <p>法律学科〔定員減〕 (△11)(令和5年4月)</p> <p>社会学部</p> <p>社会学科〔定員減〕 (△15)(令和5年4月)</p> <p>経営管理研究科 博士後期課程 経営管理専攻〔定員減〕 (△3)(令和5年4月)</p> <p>経済学研究科 博士後期課程 総合経済学専攻〔定員減〕 (△2)(令和5年4月)</p>							

		法学研究科 博士後期課程 法学・国際関係専攻〔定員減〕 (△ 2)(令和5年4月) ビジネスロー専攻〔定員減〕 (△ 1)(令和5年4月) 社会学研究科 博士後期課程 地球社会研究専攻〔定員減〕 (△ 1)(令和5年4月) 総合社会科学専攻〔定員減〕 (△ 3)(令和5年4月) 言語社会研究科 博士後期課程 言語社会専攻〔定員減〕 (△ 2)(令和5年4月)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	ソーシャル・データサイエンス学部 ソーシャル・データサイエンス学科	46科目	19科目	0科目	65科目	124単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	ソーシャル・データサイエンス学部 ソーシャル・データサイエンス学科	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	
		計	8 (8)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	22 (14)
		計	8 (8)	9 (9)	0 (0)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	— (—)
		商学部 経営学科	27 (25)	11 (11)	3 (3)	0 (0)	41 (39)	4 (4)	7 (7)
		商学科	19 (18)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	28 (27)	2 (2)	6 (6)
		経済学部 経済学科	26 (26)	14 (14)	10 (10)	0 (0)	50 (50)	0 (0)	26 (26)
		法学部 法律学科	34 (34)	14 (14)	4 (4)	0 (0)	52 (52)	0 (0)	40 (40)
		社会学部 社会学科	40 (40)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	46 (46)	6 (6)	11 (11)
	森有礼高等教育国際流動化機構	6 (6)	5 (5)	2 (2)	1 (1)	14 (14)	6 (6)	129 (129)	
	社会科学高等研究院	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
	計	154 (151)	53 (53)	25 (25)	1 (1)	233 (230)	18 (18)	— (—)	
	合計	162 (159)	62 (62)	25 (25)	2 (2)	251 (248)	18 (18)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種		専任	兼任	計	大学全体			
	事務職員		150 (150)	297 (297)	447 (447)				
	技術職員		5 (5)	0 (0)	5 (5)				
	図書館専門職員		25 (25)	0 (0)	25 (25)				
	その他の職員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計	180 (180)	297 (297)	477 (477)					
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計				
	校舎敷地	182,783 m ²	0 m ²	0 m ²	182,783 m ²				
	運動場用地	159,147 m ²	0 m ²	0 m ²	159,147 m ²				
	小計	341,930 m ²	0 m ²	0 m ²	341,930 m ²				
	その他	86,096 m ²	0 m ²	0 m ²	86,096 m ²				
	合計	428,026 m ²	0 m ²	0 m ²	428,026 m ²				
校舎	専用	167,166 m ² (167,166 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	167,166 m ² (167,166 m ²)	大学全体			
	共用								

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	82 室	100 室	10 室	1 室 (補助職員1人)	5 室 (補助職員0人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数				
		ソーシャル・データサイエンス学部 ソーシャル・データサイエンス学科			18 室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能なため、大学全体の数 図書の冊数に電子ブックは含まない	
	ソーシャル・データサイエンス学部	2,807,000 [1,304,330] (2,772,902 [1,295,907])	54,676 [43,831] (54,676 [43,831])	31,049 [30,958] (31,049 [30,958])	562 (562)	0 (0)	0 (0)		
	計	2,807,000 [1,304,330] (2,772,902 [1,295,907])	54,676 [43,831] (54,676 [43,831])	31,049 [30,958] (31,049 [30,958])	562 (562)	0 (0)	0 (0)		
図書館		面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体	
		22,144 m ²		858		2,912,111			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		5,951 m ²		武道場、野球場、ハンドボールコート、ホッケーコート、テニスコート、バレーボールコート、弓道場 他					
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等	—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等	—	—	—	—	—	—	
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
— 千円		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			—						
大学の名称		一橋大学							
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
商学部		年	人	年次人	人		倍		
経営学科		4	137	0	548	学士(商学)	1.08	昭和24年度 昭和50年度	東京都国立市中二丁目1番地
商学科		4	138	0	552	学士(商学)	1.08	昭和50年度	
経済学部									
経済学科		4	275	0	1,100	学士(経済学)	1.05	昭和24年度 平成10年度	東京都国立市中二丁目1番地
法学部									
法律学科		4	170	0	680	学士(法学)	1.07	昭和26年度 平成11年度	東京都国立市中二丁目1番地
社会学部									
社会学科		4	235	0	940	学士(社会学)	1.10	昭和26年度 平成12年度	東京都国立市中二丁目1番地

既設 大学等 の 状況	経営管理研究科						0.97	平成30年度	東京都国立市中二丁目1番地		
	経営管理専攻 (修士課程)	2	159	0	318	修士(商学), 修士(経営)	1.05	平成30年度			
	経営管理専攻 (博士後期課程)	3	26	0	78	博士(商学), 博士(経営)	0.83	平成30年度			※令和5年度入学定員減(△3人)
	国際企業戦略専攻 (博士後期課程)	3	4	0	12	博士(経営)	1.05	平成30年度			
	国際企業戦略専攻 (専門職学位課程)	2	58	0	116	経営修士(専門職)	0.94	平成30年度			
	経済学研究科						0.81	昭和28年度	東京都国立市中二丁目1番地		
	総合経済学専攻 (修士課程)	2	82	0	164	修士(経済学)	1.05	平成30年度			
	総合経済学専攻 (博士後期課程)	3	22	0	66	博士(経済学)	0.56	平成30年度			※令和5年度入学定員減(△2人)
	法学研究科						0.91	昭和28年度	東京都国立市中二丁目1番地		
	法学・国際関係専攻 (修士課程)	2	15	0	30	修士(法学)	1.27	平成16年度			
	法学・国際関係専攻 (博士後期課程)	3	26	0	78	博士(法学)	0.63	平成16年度			※令和5年度入学定員減(△2人)
	ビジネスロー専攻 (修士課程)	2	36	0	72	修士(経営法)	0.94	平成30年度			
	ビジネスロー専攻 (博士後期課程)	3	12	0	36	博士(経営法)	0.64	平成30年度			※令和5年度入学定員減(△1人)
	法務専攻 (専門職学位課程)	3	85	0	255	法務博士(専門職)	1.07	平成16年度			
	社会学研究科						0.78	昭和28年度	東京都国立市中二丁目1番地		
	地球社会研究専攻 (修士課程)	2	20	0	40	修士(社会学)	0.83	平成9年度			
	地球社会研究専攻 (博士後期課程)	3	6	0	18	博士(社会学)	0.78	平成9年度			※令和5年度入学定員減(△1人)
	総合社会科学専攻 (修士課程)	2	70	0	140	修士(社会学)	0.87	平成12年度			
	総合社会科学専攻 (博士後期課程)	3	35	0	105	博士(社会学)	0.63	平成12年度			※令和5年度入学定員減(△3人)
	言語社会研究科						0.81	平成8年度	東京都国立市中二丁目1番地		
言語社会専攻 (修士課程)	2	49	0	98	修士(学術)	0.79	平成8年度				
言語社会専攻 (博士後期課程)	3	21	0	63	博士(学術)	0.83	平成8年度	※令和5年度入学定員減(△2人)			
国際・公共政策教育部						1.23	平成17年度	東京都国立市中二丁目1番地			
国際・公共政策専攻 (専門職学位課程)	2	55	0	110	国際・行政修士(専門職), 公共経済修士(専門職)	1.23	平成17年度				

商学研究科						昭和28年度 平成19年度	東京都国立市中二丁目1番地	※平成30年度より学生募集停止
経営・マーケティング専攻（修士課程）	2	—	—	—	修士（商学），修士（経営）	—		
経営・マーケティング専攻（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（商学）	—	平成19年度	
会計・金融専攻（修士課程）	2	—	—	—	修士（商学），修士（経営）	—	平成19年度	
会計・金融専攻（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（商学）	—	平成19年度	
国際企業戦略研究科						平成10年度 平成17年度	東京都千代田区一ツ橋二丁目1番2号	※平成30年度より学生募集停止
経営法務専攻（修士課程）	2	—	—	—	修士（経営法）	—		
経営法務専攻（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（経営法）	—	平成17年度	
経営・金融専攻（博士後期課程）	3	—	—	—	博士（経営）	—	平成11年度	
経営・金融専攻（専門職学位課程）	2	—	—	—	経営修士（専門職）	—	平成15年度	
附属施設の概要	<p>（附置研究所）</p> <p>名称：経済研究所</p> <p>目的：日本及び世界の経済の総合研究を行うこと。</p> <p>所在地：東京都国立市中二丁目1番地</p> <p>設置年月：昭和17年2月</p> <p>規模等：建物5,457㎡</p> <p>（学内共同教育研究施設等）</p> <p>名称：森有礼高等教育国際流動化機構</p> <p>日本及びアジアの高等教育の国際的通用性を高め、学生の国際的な流動化の促進に寄与すること。 また、機構に以下のセンターを置く。 （全学共通教育センター）全学部に通ずる教育（基礎教育や教養教育、及び国際交流教育）の運営及び、その改善向上のための研究・開発と教育</p> <p>目的：活動支援 （国際教育交流センター）外国人留学生に対する日本語・日本事情教育と生活指導、ならびに学生相互の留学交流の推進、日本語教育及び国際教育交流に関する研究・開発 （グローバル・オンライン教育センター）インターネットを活用したグローバルなオンライン教育の研究・企画・運営</p> <p>所在地：東京都国立市中二丁目1番地</p> <p>設置年月：平成30年8月</p> <p>規模等：東1号館（建物面積 5,951㎡）の一部、国際研究館（建物面積 4,745㎡）の一部、第三研究館（建物面積 2,204㎡）の一部</p> <p>名称：情報基盤センター</p> <p>目的：本学の情報システム及びネットワークシステムの整備、運用及び管理並びに情報技術による教育研究支援及びメディア開発を行い、もって本学における教育・研究の向上と、事務処理の効率化に寄与すること。</p> <p>所在地：東京都国立市中二丁目1番地</p> <p>設置年月：平成21年4月</p> <p>規模等：建物640㎡</p>							

	<p>名 称 : 社会科学古典資料センター</p> <p>目 的 : 一橋大学附属図書館所蔵の社会科学古典資料を集中的に管理運営するとともに社会科学古典資料を収集して、これを研究者の利用に供することにより、社会科学研究の向上に寄与すること。</p> <p>所 在 地 : 東京都国立市中二丁目1番地</p> <p>設置年月 : 昭和53年4月</p> <p>規 模 等 : 建物1,110㎡</p>	
--	---	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	英語	PACE I	1前	4			○								兼1
		PACE II	1後	4			○								兼1
		英語(リーディング・基礎強化) I	1・2・3・4前		2		○								兼1
		英語(リーディング・標準) I	1・2・3・4前・後		2		○								兼2
		英語(リーディング・発展) I	1・2・3・4前		2		○								兼1
		英語(ライティング・基礎強化) I	1・2・3・4前		2		○								兼1
		英語(ライティング・標準) I	1・2・3・4後		2		○								兼1
		英語(ライティング・発展) I	1・2・3・4前		2		○								兼1
		英語(ディスカッション・基礎強化) I	1・2・3・4後		2		○								兼1
		英語(ディスカッション・標準) I	1・2・3・4後		2		○								兼1
		英語(ディスカッション・発展) I	1・2・3・4後		2		○								兼1
		英語(LL) I	1・2・3・4後		2		※								兼1 ※演習
		海外語学研修(夏季・ペンシルヴァニア大学A)	1・2・3・4休		4		○								兼1
		海外語学研修(夏季・ペンシルヴァニア大学B)	1・2・3・4休		4		○								兼1
		海外語学研修(夏季・スタンフォード大学)	1・2・3・4休		5		○								兼1
		海外語学研修(夏季・カリフォルニア大学デーヴィス校)	1・2・3・4休		6		○								兼1
		海外語学研修(夏季・ボストン大学)	1・2・3・4休		6		○								兼1
		海外語学研修(夏季・グラスゴー大学)	1・2・3・4休		7		○								兼1
		海外語学研修(夏季・サセックス大学)	1・2・3・4休		6		○								兼1
		海外語学研修(夏季・ロンドン大学アジア・アフリカ研究院)	1・2・3・4休		4		○								兼1
		海外語学研修(夏季・シドニー大学)	1・2・3・4休		6		○								兼1
		海外語学研修(春季・ペンシルヴァニア大学)	1・2・3・4休		6		○								兼1
		海外語学研修(春季・テキサス大学オースティン校)	1・2・3・4休		6		○								兼1
		海外語学研修(春季・カリフォルニア大学アーヴァイン校)	1・2・3・4休		6		○								兼1
		海外語学研修(春季・オレゴン大学)	1・2・3・4休		6		○								兼1
		海外語学研修(春季・サセックス大学)	1・2・3・4休		6		○								兼1
		海外語学研修(春季・ニューサウスウェールズ大学)	1・2・3・4休		6		○								兼1
		海外語学研修(春季・クイーンズランド大学)	1・2・3・4休		7		○								兼1
		海外語学研修(春季・モナシュ大学)	1・2・3・4休		6		○								兼1
		英語(リーディング・基礎強化) II	1・2・3・4後		2		○								兼2
		英語(リーディング・標準) II	1・2・3・4後		2		○								兼2
		英語(リーディング・発展) II	1・2・3・4前		2		○								兼1
		英語(ライティング・基礎強化) II	1・2・3・4後		2		○								兼1
		英語(ライティング・標準) II	1・2・3・4後		2		○								兼1
		英語(ライティング・発展) II	1・2・3・4前		2		○								兼1
		英語(ディスカッション・基礎強化) II	1・2・3・4前		2		○								兼2
		英語(ディスカッション・標準) II	1・2・3・4①		2		○								兼1
		英語(ディスカッション・発展) II	1・2・3・4前		2		○								兼1
		英語(LL) II	1・2・3・4前		2		※								兼1 ※演習
	小計(39科目)	—	8	137	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼11	—
日本語	日本語中級(口頭表現)	1・2・3・4後		2		○									兼1
	日本語中級(文章表現)	1・2・3・4前		2		○									兼1
	日本語中級(読解)	1・2・3・4前		2		○									兼1
	日本語中級(漢字語彙)	1・2・3・4後		2		○									兼1
	日本語中上級(口頭表現)	1・2・3・4前		2		○									兼1
	日本語中上級(文章表現)	1・2・3・4後		2		○									兼1
	日本語中上級(読解)	1・2・3・4前		2		○									兼1
	日本語中上級(文法)	1・2・3・4後		2		○									兼1
	日本語中上級(漢字語彙)	1・2・3・4前		2		○									兼1
	日本語上級(口頭表現) I	1・2・3・4後		2		○									兼1
	日本語上級(口頭表現) II	1・2・3前		2		○									兼1
	日本語上級(文章表現) I	1・2・3・4前		2		○									兼1

	日本語上級（文章表現）Ⅱ	1・2・3後	2	○								兼1	
	日本語上級（学術文章表現）	1・2・3・4前	2	○								兼1	
	日本語上級（読解）Ⅰ	1・2・3・4前	2	○								兼1	
	日本語上級（読解）Ⅱ	1・2・3前	2	○								兼1	
	日本語上級（速読）	1・2・3・4後	2	○								兼1	
	日本語上級（近代文語文講読）	1・2・3・4後	2	○								兼1	
	日本語上級（文法）	1・2・3・4後	2	○								兼1	
	日本語Ⅰ	1・2・3・4前	4	※								兼1 ※演習	
	日本語Ⅱ	1・2・3・4後	4	○								兼1	
	日本語上級（学術口頭表現）	1・2・3・4後	2	○								兼1	
	小計（22科目）	—	0	48	0	—	0	0	0	0	0	兼4	—
その他の外国語	ドイツ語初級（総合）Ⅰ	1・2・3・4前	4	○								兼5	
	ドイツ語初級（総合）Ⅱ	1・2・3・4後	4	○								兼5	
	ドイツ語初級（速修）Ⅰ	1・2・3・4前・後	2	○								兼5	
	ドイツ語初級（速修）Ⅱ	1・2・3・4②④⑥後	2	○								兼5	
	フランス語初級（総合）Ⅰ	1・2・3・4前	4	○								兼1	
	フランス語初級（総合）Ⅱ	1・2・3・4後	4	○								兼1	
	フランス語初級（速修）Ⅰ	1・2・3・4前③	2	○								兼3	
	フランス語初級（速修）Ⅱ	1・2・3・4④⑥後	2	○								兼3	
	フランス語初級（実践）Ⅰ	1・2・3・4前	2	○								兼1	
	フランス語初級（実践）Ⅱ	1・2・3・4後	2	○								兼1	
	ロシア語初級（総合）Ⅰ	1・2・3・4前	4	○								兼1	
	ロシア語初級（総合）Ⅱ	1・2・3・4後	4	○								兼1	
	中国語初級（総合）Ⅰ	1・2・3・4前	4	○								兼1	
	中国語初級（総合）Ⅱ	1・2・3・4後	4	○								兼1	
	中国語初級（速修）Ⅰ	1・2・3・4前	2	○								兼1	
	中国語初級（速修）Ⅱ	1・2・3・4後	2	○								兼1	
	中国語初級（実践）Ⅰ	1・2・3・4前	2	○								兼1	
	中国語初級（実践）Ⅱ	1・2・3・4後	2	○								兼1	
	スペイン語初級（総合）Ⅰ	1・2・3・4前	4	○								兼1	
	スペイン語初級（総合）Ⅱ	1・2・3・4後	4	○								兼1	
	スペイン語初級（速修）	1・2・3・4前	4	○								兼1	
	スペイン語初級（速修）Ⅰ	1・2・3・4前	2	○								兼1	
	スペイン語初級（速修）Ⅱ	1・2・3・4後	2	○								兼1	
	スペイン語初級（実践）Ⅰ	1・2・3・4前	2	○								兼1	
	スペイン語初級（実践）Ⅱ	1・2・3・4後	2	○								兼1	
	朝鮮語初級（総合）Ⅰ	1・2・3・4前	4	○								兼1	
	朝鮮語初級（総合）Ⅱ	1・2・3・4後	4	○								兼1	
	朝鮮語初級（速修）Ⅰ	1・2・3・4前	2	○								兼1	
	朝鮮語初級（速修）Ⅱ	1・2・3・4後	2	○								兼1	
	朝鮮語初級（実践）Ⅰ	1・2・3・4前	2	○								兼1	
	朝鮮語初級（実践）Ⅱ	1・2・3・4後	2	○								兼1	
	ドイツ語中級	1・2・3・4前・後	2	○									兼8
	ドイツ語上級	1・2・3・4前・後	2	○									兼3
	フランス語中級	1・2・3・4後	2	○									兼1
	フランス語上級	1・2・3・4前	2	○									兼2
	ロシア語中級	1・2・3・4後	2	○									兼1
	ロシア語上級	1・2・3・4前	2	○									兼1
	中国語中級（会話）	1・2・3・4前	2	○									兼1
	中国語中級（講読）	1・2・3・4前	2	○									兼1
	中国語中級（作文）	1・2・3・4前	2	○									兼2
	中国語中級（HSK・中検対策）	1・2・3・4前	2	※									兼1 ※演習
中国語上級（会話）	1・2・3・4前	2	○									兼1	
中国語上級（講読）	1・2・3・4前	2	○									兼1	
スペイン語中級	1・2・3・4前	2	○									兼1	
スペイン語上級	1・2・3・4後	2	○									兼1	
朝鮮語中級	1・2・3・4前	2	○									兼1	
朝鮮語上級	1・2・3・4後	2	○									兼1	
アラビア語初級Ⅰ	1・2・3・4前	2	○									兼1	
アラビア語初級Ⅱ	1・2・3・4後	2	○									兼1	
アラビア語中級	1・2・3・4前	2	○									兼1	
ラテン語初級Ⅰ	1・2・3・4前	2	○									兼1	

		ラテン語初級Ⅱ	1・2・3・4後	2		○														兼1		
		ラテン語中級Ⅰ	1・2・3・4前	2		○														兼1		
		ラテン語中級Ⅱ	1・2・3・4後	2		○														兼1		
		ラテン語上級Ⅰ	1・2・3・4前	2		○														兼1		
		ラテン語上級Ⅱ	1・2・3・4後	2		○														兼1		
		ギリシア語初級Ⅰ	1・2・3・4前	2		○														兼1		
		ギリシア語初級Ⅱ	1・2・3・4後	2		○														兼1		
		ギリシア語中級Ⅰ	1・2・3・4前	2		○														兼1		
		ギリシア語中級Ⅱ	1・2・3・4後	2		○														兼1		
		ギリシア語上級Ⅰ	1・2・3・4前	2		○														兼1		
		ギリシア語上級Ⅱ	1・2・3・4後	2		○														兼1		
		小計 (62科目)	—	0	150	0	—													兼26	—	
数 理 ・ 情 報	数 学	線形代数Ⅰ	1前・後	2		○														兼12		
		線形代数Ⅱ	1①・前・後	2		○														兼6		
		微分積分Ⅰ	1前・後	2		○														兼12		
		微分積分Ⅱ	1前・後	2		○														兼8		
		線形代数演習	1・2・3・4後	2		※														兼2	※演習	
		微分積分演習	1・2・3・4前	2		※														兼1	※演習	
		線形代数統論	1・2・3・4前	2		○															兼1	
		微分積分統論A	1・2・3・4前	2		○															兼1	隔年
		微分積分統論B	1・2・3・4後	2		○															兼1	隔年
		集合と位相Ⅰ	1・2・3・4前・後	2		○															兼2	
		集合と位相Ⅱ	1・2・3・4後	2		○															兼1	
		確率	1・2・3・4前・後	2		○															兼2	
		統計	1前・後	2		○								1							兼2	
		小計 (13科目)	—	10	16	0	—													兼34	—	
情 報	情 報	プログラミング基礎	1後	2		○						1								兼1		
		情報リテラシー	1前・後	2			○					1								兼1		
		AⅠ入門	1前	2			○					1										
		小計 (3科目)	—	6	0	0	—														兼2	—
理 科	理 科	生命科学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○														兼1		
		物質科学Ⅰ	1・2・3・4前	2		○														兼1		
		物理学基礎	1・2・3・4前	2		○														兼1		
		環境科学Ⅰ	1・2・3・4②	2		○														兼1	隔年	
		生態学	1・2・3・4後	2		○														兼1		
		自然科学史 (西洋)	1・2・3・4後	2		○														兼1		
		自然科学史 (東洋)	1・2・3・4前	2		○														兼1		
		地球環境システム	1・2・3・4後	2		○														兼1		
		地球科学	1・2・3・4後	2		○														兼1	隔年	
		宇宙科学	1・2・3・4④	2		○														兼1	隔年	
		サイエンス工房 (物理学) A	1・2前	2		※														兼1	※演習、実験・実習	
		サイエンス工房 (物理学) B	1・2後	2		※														兼1	※演習、実験・実習	
		サイエンス工房 (地球科学) A	1・2②	2		※														兼1	※演習、実験・実習	
		サイエンス工房 (地球科学) B	1・2④	2		※														兼1	※演習、実験・実習	
		サイエンス工房 (環境科学) A	1・2②	2		※														兼1	※演習、実験・実習	
		サイエンス工房 (環境科学) B	1・2④	2		※														兼1	※演習、実験・実習	
		自然地理学	1・2・3・4①	2		○															兼1	
		環境科学Ⅱ	1・2・3・4②	2		○															兼1	隔年
		小計 (18科目)	—	0	36	0	—													兼7	—	
運 動 文 化	運 動 文 化	スポーツ方法 (春夏)Ⅰ	1・2・3・4前	1			○													兼4		
		スポーツ方法 (秋冬)Ⅰ	1・2・3・4後	1			○													兼4		
		スポーツ演習	1・2・3・4前・後	2		※														兼4	※演習	
		現代社会とスポーツA	1・2・3・4前	2		○														兼1		
		小計 (4科目)	—	0	6	0	—														兼4	—
人 文 学	哲 学 ・ 思 想	心理学	1・2・3・4後	2		○														兼3		
		論理学	1・2・3・4後	2		○														兼1	隔年	
		言語学	1・2・3・4前	2		○														兼1		
		小計 (3科目)	—	0	6	0	—														兼5	—
		歴 史 学	歴 史 学	台湾の歴史と社会	1・2・3・4前	2		○														兼1
朝鮮の歴史と文化A	1・2・3・4前			2		○														兼1		
朝鮮の歴史と文化B	1・2・3・4後			2		○														兼1		
小計 (3科目)	—			0	6	0	—														兼4	—

文学	ドイツ語圏文学	1・2・3・4前		2		○							兼1	隔年	
	中国文学	1・2・3・4後		2		○							兼1	隔年	
	外国人留学生のための日本事情A	1・2・3・4後		2		○							兼1		
	国語	1・2・3・4後		2		○							兼1	隔年	
	日本の言語文化	1・2・3・4後		2		○							兼1	隔年	
小計 (5科目)	—	0	10	0	—			0	0	0	0	0	兼5	—	
人間科学	美術論 (西洋)	1・2・3・4後		2		○							兼1		
	美術論 (日本・東洋)	1・2・3・4前		2		○							兼1		
	日本語研究入門	1・2・3・4前		2		○							兼1		
	音楽論 (西洋)	1・2・3・4後		2		○							兼1		
	音楽論 (日本・東洋)	1・2・3・4後		2		○							兼1		
	現代日本語論	1・2・3・4後		2		○							兼1		
小計 (6科目)	—	0	12	0	—			0	0	0	0	0	兼4	—	
総合	ドイツ語圏の社会と文化	1・2・3・4後		2		○							兼1	隔年	
	フランス語圏の社会と文化	1・2・3・4後		2		○							兼1		
	中国社会論	1・2・3・4後		2		○							兼1	隔年	
	台湾文化論	1・2・3・4後		2		○							兼1	隔年	
	日本文化論	1・2・3・4①		2		○							兼1	隔年	
	外国人留学生のための日本事情B	1・2・3・4後		2		○							兼1		
	海外留学スキル・トレーニング	1・2・3・4前		2		○							兼1		
	海外留学と国際教育交流	1・2・3・4後		2		○							兼1		
	教育と経済	1・2・3・4②		2		○							兼1	集中	
	教育と経済開発	1・2・3・4後		2		○							兼1		
	一橋大学の歴史	1・2・3・4前		2		○							兼1	隔年	
	ジェンダーと人権	1・2・3・4後		2		○							兼1		
	教育心理学 I	1・2・3・4前		2		○							兼1		
	囲碁—文化としての戦略思考—	1・2・3・4後		1		○							兼1		
	ドイツ語圏地域文化論	1・2・3・4後		2		○							兼1		
	スペイン語圏地域文化論 (中南米)	1・2・3・4前		2		○							兼1		
	スペイン語圏地域文化論 (スペイン)	1・2・3・4後		2		○							兼1		
	日本文学	1・2・3・4後		2		○							兼1	隔年	
	異文化交流研修 (春季・スペイン企業派遣)	1・2・3・4休		7		○							兼1		
小計 (19科目)	—	0	42	0	—			0	0	0	0	0	兼15	—	
科目 如 附 講 義 水 会 寄 リ ア	如水ゼミ	2・3・4前・後		2	※								兼1	※演習	
小計 (1科目)	—	0	0	2	—			0	0	0	0	0	兼1	—	
国際交流科目	Japanese Language	Introduction to Japanese Language	1・2・3・4前		2		○						兼1		
		Basic Japanese I	1・2・3・4前		2		○						兼1		
		Basic Japanese II	1・2・3・4後		2		○						兼1		
		Intermediate Japanese I	1・2・3・4前		2		○						兼1		
		Intermediate Japanese I Reading	1・2・3・4後		2		○						兼1		
		Intermediate Japanese I Writing	1・2・3・4後		2		○						兼1		
		Intermediate Japanese I Speaking	1・2・3・4後		2		○						兼1		
		Intermediate Japanese I Kanji & Vocabulary	1・2・3・4前		2		○						兼1		
		Intermediate Japanese II	1・2・3・4後		2		○						兼1		
	小計 (9科目)	—	0	18	0	—			0	0	0	0	0	兼4	—
	Japanese Affairs	Explore Japan	1・2・3・4前		2		○							兼1	
		Japanese Culture A	1・2・3・4後		2		○							兼1	
		Japanese Culture B	1・2・3・4前		2		○							兼1	
		Japanese Education A	1・2・3・4後		2		○							兼1	
小計 (4科目)		—	8	8	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—

ソーシャル・データサイエンス学部教育科目	学部導入科目 サイエンス科目 データ	ソーシャル・データサイエンス入門Ⅰ	1前	2		※			1						※演習
		ソーシャル・データサイエンス入門Ⅱ	1後	2			※		1						※講義
		ソーシャル・データサイエンスの法と倫理	2前	2			○		1						
		小計(3科目)	—	6	0	0	—	3	0	0	0	0	0	0	—
	(経営学・経済学系) 社会科学科目	社会科学入門(経営学)	1・2前		2		○							兼1	隔年
		社会科学入門(マーケティング)	1・2後		2		○							兼2	隔年
		社会科学入門(会計学)	1・2前		2		○							兼2	隔年
		社会科学入門(金融)	1・2後		2		○							兼1	隔年
		社会科学入門(経済学)	1・2③		2		○							兼2	
		小計(5科目)	—	0	10	0	—	0	0	0	0	0	0	兼8	—
	社会科学科目(法学・政治学系) 学・その他の社会科学系	社会科学入門(法学)	1・2①		2		○							兼1	
		社会科学入門(社会学)	1・2①		2		○							兼1	
		社会科学入門(歴史学)	1・2②		2		○							兼1	集中
		小計(3科目)	—	0	6	0	—	0	0	0	0	0	0	兼3	—
	学部基礎科目 (経営学・経済学系) 社会科学科目	経営戦略論とデータサイエンス	2・3①		2		※			1					※演習
		マーケティングとデータサイエンス	2・3②		2		○			1					
		ファイナンスとデータサイエンス	2・3③		2		○		1						
		ミクロ経済学とデータサイエンス	2・3④		2		○		1						
		マクロ経済学とデータサイエンス	2・3①		2		○							兼1	
		小計(5科目)	—	0	10	0	—	2	2	0	0	0	0	兼1	—
	社会科学科目(法学・政治学系) その他の社会科学系	行政法とデータサイエンス	2・3②		2		○		1						
		政治学とデータサイエンス	2・3③		2		○			1					
		国際政治とデータサイエンス	2・3②		2		○							兼1	集中
		心理学とデータサイエンス	2・3④		2		○			1					
		小計(4科目)	—	0	8	0	—	1	2	0	0	0	0	兼1	—
	統計学科目	回帰分析Ⅰ	2・3①	2			○			1					※演習
		回帰分析Ⅱ	2・3③		2		※			1					※演習
		因果推論	2・3③		2		○		1						※演習
		数理統計学	2・3②		2		※			1					※演習
		公的統計	2・3②		2		※							兼1	※演習
		小計(5科目)	—	2	8	0	—	1	3	0	0	0	0	兼1	—
	情報・AI科目	実践的機械学習Ⅰ	2・3①	2			※		1	1					※講義
		実践的機械学習Ⅱ	2・3②		2		※		1						※講義
		AI(人工知能)	2・3②		2		※		1						※演習
		ベイズ統計学Ⅰ	2・3④		2		○		1						
		小計(4科目)	—	2	6	0	—	1	3	0	0	0	0	0	—
	プログラミング科目	プログラミングⅠ	2・3後	2			○		1			1			※講義
		プログラミングⅡ	2・3前		2		※		1	1		1			※演習
		アルゴリズム	2・3①		2		※		1						※演習
		データ可視化	2・3④		2		※		1						※講義
		データベース	2・3③		2		※			1					※講義
		データハンドリング	2・3③		2		※			1					※講義
		小計(6科目)	—	2	10		—	2	2	0	1	0	0	0	—

学部 発展 科目	データに基づく経営意思決定	3・4①		2		※				1					※演習	
	技術経営論	3・4②		2		○								兼1	集中	
	マーケティングサイエンス	3・4②		2		※				1					※演習	
	先端情報システム論	3・4④		2			※					1			※講義	
	空間・不動産データ分析	3・4③		2		※				1					※演習	
	金融市場データ分析	3・4②		2		※				1					※演習	
	小計（6科目）	—	0	12	0	—				2	2	0	1	0	兼1	—
	社会 科学 科目 （ ビジ ネス ・ イノ ベ ー ション 分析 科目）	エビデンスに基づく科学技術政策	3・4②		2		※				1					※演習
		長期経済統計と日本経済のデータ分析	3・4後		2		※								兼1	※演習
		計量政治学	3・4①		2		○				1					
医療データ分析		3・4①		2		○								兼2	オムニバス	
持続的発展のためのデータ分析		3・4②		2		○								兼1		
小計（5科目）	—	0	10	0	—				1	1	0	0	0	兼4	—	
統計 学 科 目	多変量解析	3・4④		2		※				1					※演習	
	ノンパラメトリック分析	3・4②		2		※								兼1	※演習 集中	
	質的データ分析	3・4③		2		※				1					※演習	
	時系列分析	3・4①		2		○					1					
	小計（4科目）	—	0	8	0	—				2	1	0	0	0	兼1	—
情報 ・ A I 科 目	ベイズ統計学Ⅱ	3・4②		2		※					1				※演習	
	認知科学	3・4②		2		○					1					
	機械学習理論	3・4③		2		○					1					
	自然言語処理	3・4①		2			※			1					※講義	
	情報・サイバーセキュリティ	3・4①		2		○								兼2	オムニバス	
	画像処理	3・4③		2		※					1				※演習	
小計（6科目）	—	0	12	0	—				1	4	0	0	0	兼2	—	
プ ロ グ ラ ミ ン グ 科 目	応用人工知能	3・4②		2		※				1					※演習	
	小計（1科目）	—	0	2	0	—				1	0	0	0	0	—	
P B L 演 習 科 目	P B L 演習 A	3前		2			○				2					
	P B L 演習 B	3前		2			○			1	1					
	P B L 演習 C	3前		2			○			1						
	P B L 演習 D	3後		2			○				2					
	P B L 演習 E	3後		2			○			1	1					
	P B L 演習 F	3後		2			○			1						
	小計（6科目）	—	0	12	0	—				4	6	0	0	0	0	—
演 習 科 目	主ゼミナール	3・4通	4				○			8	9		1			
	副ゼミナール	3・4通		4			○			8	9		1			
	小計（2科目）	—	4	4	0	—				8	9	0	1	0	0	—
合計（276科目）			—	48	613	2	—			8	9	0	1	0	兼125	—
学位又は称号	学士（ソーシャル・データサイエンス）		学位又は学科の分野				経済学関係、工学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
(卒業要件) 4年以上在学し、124単位以上を修得し、かつ科目区分ごとの卒業要件単位数を修得するとともに、グローバル教育ポートフォリオ（※）を修了した上で、学士論文試験に合格すること。							1 学年の学期区分			4 期						
							1 学期の授業期間			7 週						
							1 時限の授業時間			105分						

(科目区分ごとの卒業要件単位数)

【全学共通教育科目】 32単位以上

外国語 16単位以上

外国語のうち、「PACE I」、「PACE II」(計8単位)を必修とする。

数理・情報 16単位以上

数理・情報のうち、「線形代数Ⅰ」、「線形代数Ⅱ」、「微分積分Ⅰ」、「微分積分Ⅱ」、「統計」、「プログラミング基礎」、「情報リテラシー」、「AI入門」(計16単位)を必修とする。

【ソーシャル・データサイエンス学部教育科目】 62単位以上

学部導入科目 14単位以上

学部導入科目のうち、「ソーシャル・データサイエンス入門Ⅰ」、「ソーシャル・データサイエンス入門Ⅱ」、「ソーシャル・データサイエンスの法と倫理」(計6単位)を必修とする。

加えて、社会科学科目(経営学・経済学系)群(「社会科学入門(経営学)」、「社会科学入門(マーケティング)」、「社会科学入門(会計学)」、「社会科学入門(金融)」、「社会科学入門(経済学)」)及び、社会科学科目(法学・政治学・その他の社会科学系)群(「社会科学入門(法学)」、「社会科学入門(社会学)」、「社会科学入門(歴史学)」)から4科目(計8単位)を選択必修とする。ただし、社会科学科目(経営学・経済学系)及び社会科学科目(法学・政治学・その他の社会科学系)のそれぞれから少なくとも1科目の修得を必須とする。

学部基礎科目 10単位以上

学部基礎科目のうち、「回帰分析Ⅰ」、「実践的機械学習Ⅰ」、「プログラミングⅠ」(計6単位)を必修とする。加えて、以下の科目を選択必修とする。

- ・社会科学科目(経営学・経済学系科目)群(「経営戦略論とデータサイエンス」、「マーケティングとデータサイエンス」、「ファイナンスとデータサイエンス」、「ミクロ経済学とデータサイエンス」、「マクロ経済学とデータサイエンス」)から1科目(2単位)
- ・社会科学科目(法学・政治学・その他の社会科学系科目)群(「行政法とデータサイエンス」、「政治学とデータサイエンス」、「国際政治とデータサイエンス」、「心理学とデータサイエンス」)から1科目(2単位)

学部発展科目 6単位以上

学部発展科目のうち、以下の科目を選択必修とする。

- ・社会科学科目(ビジネス・イノベーション分析科目)群(「データに基づく経営意思決定」、「技術経営論」、「マーケティングサイエンス」、「先端情報システム論」、「金融市場データ分析」、「空間・不動産データ分析」)から1科目(2単位)
- ・社会科学科目(社会課題解決科目)群(「エビデンスに基づく科学技術政策」、「長期経済統計と日本経済のデータ分析」、「計量政治学」、「医療データ分析」、「持続的発展のためのデータ分析」)から1科目(2単位)
- ・統計学科目群(「多変量解析」、「ノンパラメトリック分析」、「質的データ分析」、「時系列分析」)、情報・AI科目群(「認知科学」、「機械学習理論」、「自然言語処理」、「ベイズ統計学Ⅱ」、「情報・サイバーセキュリティ」、「画像処理」)又はプログラミング科目群(「応用人工知能」)から1科目(2単位)

PBL演習科目 4単位以上

PBL演習科目群(「PBL演習A～F」)から2科目(4単位)を必修とする。

演習科目 8単位以上

「主ゼミナール」(3、4年次、通年各4単位の計8単位)を必修とする。

その他の【ソーシャル・データサイエンス学部教育科目】 20単位以上

【他学部教育科目】 6単位以上

ソーシャル・データサイエンス学部以外の2学部以上にわたって6単位を修得。

【自由選択科目】 24単位以上

ソーシャル・データサイエンス学部教育科目、全学共通教育科目及び他学部教育科目から修得。ただし、上記科目区分ごとの卒業要件単位を除く。

(履修科目の登録の上限)

各学期14単位、年間44単位を履修登録単位数の上限とする。ただし、一部の成績優秀者(前年度末における累積GPAが3.8以上の者)については、各学期16単位、年間48単位を履修登録単位数の上限とする。

(※)グローバル教育ポートフォリオの修了要件：①初年次英語スキル教育(「PACE I」、「PACE II」*科目区分ごとの卒業要件単位数以外の卒業要件に含む)及び②短期語学留学、語学集中研修、短期海外留学(サマースクール)、長期海外留学、海外インターシップ、ゼミを中心とした海外調査・インターゼミ等、の両方を満たす。ただし、英語プレースメントテスト(TOEFL-ITPテスト)のスコアが一定水準以上の学生は②のプログラムの受講を免除される。

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要			
(ソーシャル・データサイエンス学部ソーシャル・データサイエンス学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通 教育 科目	外国語	英語	
		PACE I	英語で行われる4技能（読む、聴く、書く、話す）、文法、プレゼンテーション、プロジェクトワークを通じて、英語運用能力（特に聞く力、話す力）を高め、より高度な英語コミュニケーションスキルを身につけ、さらに国際的視野を広め、異文化を受容する力、および積極的に情報を発信する力を身につける。
		PACE II	英語で行われる4技能（読む、聴く、書く、話す）、文法、プレゼンテーション、プロジェクトワークを通じて、英語運用能力（特に聞く力、話す力）を高め、より高度な英語コミュニケーションスキルを身につけ、さらに国際的視野を広め、異文化を受容する力、および積極的に情報を発信する力を身につける。
		英語（リーディング・基礎強化）I	文法的知識と語彙力を充実させ、英語の世界的展開に対応した学術的かつ実践的な読解力を修得することを目標とする。具体的には、英語の文献を正確に、能動的に読む能力を高めるため、言語文化の多様な側面に接する機会を提供し、様々なジャンルの英文を読みこなすための基礎的な力を強化する。
		英語（リーディング・標準）I	文法的知識と語彙力を充実させ、英語の世界的展開に対応した学術的かつ実践的な読解力を修得することを目標とする。具体的には、英語の文献を正確に、能動的に読む能力を高めるため、言語文化の多様な側面に接する機会を提供し、様々なジャンルの英文を読みこなすための基礎的な力を強化する。また、高度な言語的、文学的、社会的内容をもった文献を読むことを通して、様々なジャンルの英文を理解し鑑賞する能力、かつまたそれらを批判的に読む中級レベルの能力を養成する。
		英語（リーディング・発展）I	文法的知識と語彙力を充実させ、英語の世界的展開に対応した学術的かつ実践的な読解力を修得することを目標とする。具体的には、英語の文献を正確に、能動的に読む能力を高めるため、言語文化の多様な側面に接する機会を提供し、様々なジャンルの英文を読みこなすための基礎的な力を強化する。また、高度な言語的、文学的、社会的内容をもった文献を読むことを通して、様々なジャンルの英文を理解し鑑賞する能力、かつまたそれらを批判的に読む発展レベルの能力を養成する。
		英語（ライティング・基礎強化）I	在学中のみならず、卒業後も役立つような、基礎レベルの英語記述能力を身につけることを目標とする。授業で学ぶ内容の例としては、基本的なパラグラフの書き方、多様な形式や文体による作文、トピックの選び方とリサーチの行い方、正しい引用のルールと剽窃の避け方などが挙げられる。
		英語（ライティング・標準）I	在学中のみならず、卒業後も役立つような、標準レベルの英語記述能力を身につけることを目標とする。授業で学ぶ内容の例としては、基本的なパラグラフの書き方、多様な形式や文体による作文、トピックの選び方とリサーチの行い方、正しい引用のルールと剽窃の避け方などが挙げられる。
	英語（ライティング・発展）I	在学中のみならず、卒業後も役立つような、発展レベルの英語記述能力を身につけることを目標とする。授業で学ぶ内容の例としては、基本的なパラグラフの書き方、多様な形式や文体による作文、トピックの選び方とリサーチの行い方、正しい引用のルールと剽窃の避け方などが挙げられる。	

英語（ディスカッション・基礎強化）Ⅰ	アカデミックな内容について英語で議論し、英語圏のアカデミックな環境にも対応しうる基礎レベルの言語力を培うことを目標とする。授業で学ぶ内容の例としては、分かりやすい説明・解説の工夫、複数の選択肢の提供、意見の整理と構築などがある。	
英語（ディスカッション・標準）Ⅰ	アカデミックな内容について英語で議論し、英語圏のアカデミックな環境にも対応しうる標準レベルの言語力を培うことを目標とする。授業で学ぶ内容の例としては、分かりやすい説明・解説の工夫、複数の選択肢の提供、意見の整理と構築などがある。	
英語（ディスカッション・発展）Ⅰ	アカデミックな内容について英語で議論し、英語圏のアカデミックな環境にも対応しうる発展レベルの言語力を培うことを目標とする。授業で学ぶ内容の例としては、分かりやすい説明・解説の工夫、複数の選択肢の提供、意見の整理と構築などがある。	
英語（LL）Ⅰ	LL機材(LL教室)または視覚・聴覚に訴える教材を利用して、英語のコミュニケーション能力を向上させることを目指す。授業では、基礎的な訓練（音の聞こえ方の法則を学ぶ、標準的英語によるニュースやスピーチなどを正確に聴き取る、シャドウイングなどにより聞くことから話すことへと繋げる）を行ったうえで、応用的な演習（映画やTED、英語圏の大学の講義などを通して、多様な話者による自然な発話を理解する）に取り組む。	講義11.4時間 演習11.4時間
海外語学研修（夏季・ペンシルヴァニア大学A）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	
海外語学研修（夏季・ペンシルヴァニア大学B）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	
海外語学研修（夏季・スタンフォード大学）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	
海外語学研修（夏季・カリフォルニア大学デーヴィス校）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	
海外語学研修（夏季・ボストン大学）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	
海外語学研修（夏季・グラスゴー大学）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	

海外語学研修（夏季・サセックス大学）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	
海外語学研修（夏季・ロンドン大学アジア・アフリカ研究院）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	
海外語学研修（夏季・シドニー大学）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	
海外語学研修（春季・ペンシルヴァニア大学）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	
海外語学研修（春季・テキサス大学オースティン校）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	
海外語学研修（春季・カリフォルニア大学アーヴァイン校）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	
海外語学研修（春季・オレゴン大学）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	
海外語学研修（春季・サセックス大学）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	
海外語学研修（春季・ニューサウスウェールズ大学）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	
海外語学研修（春季・クィーンズランド大学）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	

海外語学研修（春季・モナシユ大学）	海外留学経験の少ない学生向けに、休業期間中に英語圏での語学研修および異文化交流機会を提供する。文化背景の異なる人々とのコミュニケーションを実践し、世界の様々な国や地域の人々と相互に理解し、尊重し、協働する力を体得する。	
英語（リーディング・基礎強化）Ⅱ	文法的知識と語彙力を充実させ、英語の世界的展開に対応した学術的かつ実践的な読解力を修得することを目標とする。具体的には、英語の文献を正確に、能動的に読む能力を高めるため、言語文化の多様な側面に接する機会を提供し、様々なジャンルの英文を読みこなすための基礎的な力を強化する。	
英語（リーディング・標準）Ⅱ	文法的知識と語彙力を充実させ、英語の世界的展開に対応した学術的かつ実践的な読解力を修得することを目標とする。具体的には、英語の文献を正確に、能動的に読む能力を高めるため、言語文化の多様な側面に接する機会を提供し、様々なジャンルの英文を読みこなすための基礎的な力を強化する。また、高度な言語的、文学的、社会的 content をもった文献を読むことを通して、様々なジャンルの英文を理解し鑑賞する能力、かつまたそれらを批判的に読む中級レベルの能力を養成する。	
英語（リーディング・発展）Ⅱ	文法的知識と語彙力を充実させ、英語の世界的展開に対応した学術的かつ実践的な読解力を修得することを目標とする。具体的には、英語の文献を正確に、能動的に読む能力を高めるため、言語文化の多様な側面に接する機会を提供し、様々なジャンルの英文を読みこなすための基礎的な力を強化する。また、高度な言語的、文学的、社会的 content をもった文献を読むことを通して、様々なジャンルの英文を理解し鑑賞する能力、かつまたそれらを批判的に読む発展レベルの能力を養成する。	
英語（ライティング・基礎強化）Ⅱ	在学中のみならず、卒業後も役立つような、基礎レベルの英語記述能力を身につけることを目標とする。授業で学ぶ内容の例としては、基本的なパラグラフの書き方、多様な形式や文体による作文、トピックの選び方とリサーチの行い方、正しい引用のルールと剽窃の避け方などが挙げられる。	
英語（ライティング・標準）Ⅱ	在学中のみならず、卒業後も役立つような、中級レベルの英語記述能力を身につけることを目標とする。授業で学ぶ内容の例としては、基本的なパラグラフの書き方、多様な形式や文体による作文、トピックの選び方とリサーチの行い方、正しい引用のルールと剽窃の避け方などが挙げられる。	
英語（ライティング・発展）Ⅱ	在学中のみならず、卒業後も役立つような、発展レベルの英語記述能力を身につけることを目標とする。授業で学ぶ内容の例としては、基本的なパラグラフの書き方、多様な形式や文体による作文、トピックの選び方とリサーチの行い方、正しい引用のルールと剽窃の避け方などが挙げられる。	
英語（ディスカッション・基礎強化）Ⅱ	アカデミックな内容について英語で議論し、英語圏のアカデミックな環境にも対応しうる基礎レベルの言語力を培うことを目標とする。授業で学ぶ内容の例としては、分かりやすい説明・解説の工夫、複数の選択肢の提供、意見の整理と構築などがある。	
英語（ディスカッション・標準）Ⅱ	アカデミックな内容について英語で議論し、英語圏のアカデミックな環境にも対応しうる中級レベルの言語力を培うことを目標とする。授業で学ぶ内容の例としては、分かりやすい説明・解説の工夫、複数の選択肢の提供、意見の整理と構築などがある。	
英語（ディスカッション・発展）Ⅱ	アカデミックな内容について英語で議論し、英語圏のアカデミックな環境にも対応しうる発展レベルの言語力を培うことを目標とする。授業で学ぶ内容の例としては、分かりやすい説明・解説の工夫、複数の選択肢の提供、意見の整理と構築などがある。	

	英語 (L L) II	LL機材(LL教室)または視覚・聴覚に訴える教材を利用して、英語のコミュニケーション能力を向上させることを目指す。授業では、基礎的な訓練(音の聞こえ方の法則を学ぶ、標準的英語によるニュースやスピーチなどを正確に聴き取る、シャドウイングなどにより聞くことから話すことへと繋げる)を行ったうえで、応用的な演習(映画やTED、英語圏の大学の講義などを通して、多様な話者による自然な発話を理解する)に取り組む。	講義11.4時間 演習11.4時間
日本語	日本語中級 (口頭表現)	中級レベルの文法と語彙を使って、口頭表現の基礎力を養成する。目標は1) 日常生活に関する話題で、情報交換や議論などの会話ができること、2) 自分の経験や物語やそれについての考えを聞き手に伝わるように語ることができることの2点である。	
	日本語中級 (文章表現)	自分の考えを論理的に書く練習やクラスメートとのディスカッションを通して、初級・中級レベルの文法とことばを使い、まとまりのある論理的な作文を書く基礎力を養成する。	
	日本語中級 (読解)	中級レベルの文法と語彙を使って書かれた文章を読み、読解の基礎力を養成する。文章のテーマと大意を理解できるようになること、文章の中から素早く必要な情報を見つけられるようになること、文章の論理展開を考えながら読めるようになること、筆者の主張を理解できるようになることを目指す。	
	日本語中級 (漢字語彙)	中級レベルの漢字・語彙力を養成する。漢字の特徴を理解して、その特徴を使って、新しい漢字やことばの意味を学ぶ。N3レベルの語彙の漢字・語彙の習得し、新しい漢字の読み方や意味が推測できるようになることを目指す。	
	日本語中上級 (口頭表現)	中上級レベルの文法とことばを使って、いろいろな場面に対応できる会話の力を養成する。具体的には、一定のまとまりのある談話を構成して自律的に会話を管理できる能力、日常会話だけでなくアカデミックな場でのコミュニケーションの基礎力などを身につけるためのトレーニングを行う。	
	日本語中上級 (文章表現)	中上級レベルの文法と語彙を使って、文章表現の応用力を養成する。自分の考えを伝える文章を書くこと、文章の論理的な構成などを学び、日本語でわかりやすい文を書けるようになることを目指す。	
	日本語中上級 (読解)	中上級レベルの文法と語彙を使って書かれた文章を読み、読解の応用力を養成する。日本語で書かれたさまざまなタイプの文章に触れるとともに、身近な事柄だけでなく、幅広いテーマを対象に、情報を取るために読む、深く考えながら精読する、文学的な作品を味わうなど、目的に応じた多様な読み方ができるようになることを目指す。	
	日本語中上級 (文法)	中上級レベルで適切な運用を行うために必要な文法知識を身につける。既習の文法知識のうち、正しい運用に課題を残す表現を整理し、定着をはかるとともに、中級から上級に相当する新しい表現を学び、その表現を使えるようになることで、アカデミックな日本語運用に近づくことを目指す。	

日本語中上級（漢字語彙）	中上級レベルの漢字・語彙の応用力を養成する。一般的な漢字語彙だけでなく、専門分野の学習や研究に必要な基礎語彙について語彙の読み、意味、用法などについて、様々な角度から分析的に学び、漢字語彙の力の増強を図る。	
日本語上級（口頭表現）Ⅰ	日本語を使う現状を分析して必要な課題を知り、自分が言いたいことを相手に伝えることができるようになること、聞き手の理解や感情と場面を考え、適切な表現を選びながら会話が続けられるようになること、対話を通して他者を理解し関係性を結ぶことができるようになることを目指し、内容を正確に伝えることに加え、聞き手に配慮した話し方ができるようになるためのトレーニングを行う。	
日本語上級（口頭表現）Ⅱ	社会的なトピックを通じて、物事や自分の考えを日本語で論理だてて説明すること、ディスカッションを行う中でさまざまな意見を受容し、協力しながら考えを深めることができるようになることを目標とし、大学生活の様々な場面で必要なコミュニケーション・スキルを身につけるためのトレーニングを行う。	
日本語上級（文章表現）Ⅰ	テーマにそくした内容の文章を、適切な文体で書けるようになるためのトレーニングを行う。アカデミックな日本語運用を目指し、説明文や意見文を中心に、使い分けの難しい文法表現や文章の作法を学び、適切な表現や文体を用いて自らの意図する内容が書けるようになることを目的とする。	
日本語上級（文章表現）Ⅱ	文章の目的（内容、読み手など）に合わせて適切な文章を書けるようになるために必要なトレーニングを行う。アカデミックな文章に限らず、習熟した日本語表現を用いて様々なタイプの文章を工夫して書けるようになる。また、読む人のことを考えて、表現や構成、内容を組み立てられるようになるとともに、自分らしい文章が書けるようになることを目指す。	
日本語上級（学術文章表現）	アカデミックな場面で必要とされる、レポート・論文を書くのに必要な文章表現技術を身につけるためのトレーニングを行う。レポートを書くための表現や技法を学び、自分で選んだテーマに即したレポートを完成させる。	
日本語上級（読解）Ⅰ	文章の難易度や読む目的に合わせて、適切に内容を把握できるようになるためのトレーニングを行う。エッセイ、ドキュメンタリー、論説、書評、小説などさまざまな文章を読むことを通して、多様な読み方を学び、幅広いテーマに触れながら、日本語の文章を「読む」ことの楽しさを味わう。	
日本語上級（読解）Ⅱ	日本語で書かれたさまざまな言説を読むことを通して、日本社会について考えを深めることを目的とする。フィクション・ノンフィクションを問わず、知的好奇心を呼び起こす文章を読み、ディスカッションをすることを通じて、現在の日本社会についてより深く考えていく。自律的に日本語で書かれたものを選択し、理解し、味わうことができる能力を養成する。	
日本語上級（速読）	新聞・雑誌・書籍を素材として、生の日本語から目的に応じて必要な情報を速く深く読み取るためのトレーニングを行う。様々なタイプの文章を効率的に、かつ、正しく理解するために必要な技能を磨く練習を行い、「読み方」を意識的にコントロールし、自分の読みに自覚的になることを目指す。	
日本語上級（近代文語文講読）	明治以降の文語文を読むために必要な文法や語彙の知識を踏まえて、文語文を読むために必要なトレーニングを行う。福沢諭吉、中江兆民らの文献を原文で読めるようになることを目指す。また、近代語と現代語の関係を知ることを通して、現代日本語に関する理解を深めることを目的とする。	

	日本語上級（文法）	「自分が日本語で表したいことを表すための手段」として文法を学ぶ。重要な文法項目を適切に使うための規則を確認し、自分が書いた文章の文法的観点からの推敲ができる能力を養う。	
	日本語 I	講義やプレゼンテーションの演習を通して、日本語のアカデミックな表現を用いた専門内容の説明や質疑応答の能力を養う。現在の日本社会、経済などに関わるトピックに関する知識、語彙、表現などを身につけることを目的とする。	講義11.4時間 演習11.4時間
	日本語 II	社会科学の勉強に必要な日本語能力を総合的に養成する。日本語 I に続いて高度な読み・書き・聞き・話す活動を通じて、日本語力の伸長を図ることを目標とする。	
	日本語上級（学術口頭表現）	自身の専門についての理解を深めると同時に、大学での学習活動を進める上で必要な、公の場での口頭発表能力を高めることを目指して、アカデミックな場面で必要とされるプレゼンテーション・スキルなどを身に付けるためのトレーニングを行う。	
その他の 外国語	ドイツ語初級（総合） I	2学期（14週）週2回の授業。目標はドイツ語初心者ドイツ語の基本構造を理解しながら、初歩レベルでの「読む・聞く・書く・話す」の基本技能を身につけること。担当教員が選定する教材にもとづく講義形式の説明と、学生によるプレゼンテーションやグループワークが適宜組み合わせられる。	
	ドイツ語初級（総合） II	2学期（14週）週2回の授業。目標はドイツ語初級（総合） I での既習内容をもとにドイツ語の基本技能「読む・聞く・書く・話す」の練習範囲を広げ、コミュニケーションとドイツ語文法理解の基礎力を身につけること。担当教員が選定する教材にもとづく講義形式の説明と、学生によるプレゼンテーションやグループワークが適宜組み合わせられる。	
	ドイツ語初級（速修） I	2学期（14週）週1回の授業。目標は初めてドイツ語を学ぶ学習者を対象とし、初級文法のさらに基本的な部分を身につけ、ドイツ語の「読む・聞く・書く・話す」の世界を体験すること。担当教員が選定する教材にもとづく講義形式の説明と、学生によるプレゼンテーションやグループワークが適宜組み合わせられる。	
	ドイツ語初級（速修） II	2学期（14週）週1回の授業。目標はドイツ語初級（速修） I で学んだ基礎的な能力をもとにドイツ語の基本技能「読む・聞く・書く・話す」の練習範囲を広げ、コミュニケーションとドイツ語文法理解の基礎力を身につけること。担当教員が選定する教材にもとづく講義形式の説明と、学生によるプレゼンテーションやグループワークが適宜組み合わせられる。	
	フランス語初級（総合） I	フランス語の基礎知識（初級文法前半）を習得することを、講義の主たる目的とする。フランス語の発音と綴り字の関係、初歩的な文法や語彙を習得し、その初歩的な運用に習熟する。また日本語や英語との対照から、フランス語特有の表現方法に着目し、その背後にあるフランス語的な発想・思考・価値観・文化のありようを理解する。週に2回行われる授業を通じて、以上の目的を達成する。引き続き、「フランス語初級（総合） II」を履修することが求められる。	
	フランス語初級（総合） II	フランス語の基礎知識（初級文法後半）を習得することを、講義の主たる目的とする。フランス語の発音と綴り字の関係、基本的な文法や語彙を習得し、その基本的な運用に習熟する。また日本語や英語との対照から、フランス語特有の表現方法に着目し、その背後にあるフランス語的な発想・思考・価値観・文化のありようを理解する。週に2回行われる授業を通じて、以上の目的を達成する。「フランス語初級（総合） I」の学習内容を理解していることが履修の前提となる。	

フランス語初級（速修）Ⅰ	フランス語の基礎知識（初級文法前半）を習得することを、講義の主たる目的とする。フランス語の発音と綴り字の関係、初歩的な文法や語彙を習得し、その初歩的な運用に習熟する。また日本語や英語との対照から、フランス語特有の表現方法に着目し、その背後にあるフランス語的な発想・思考・価値観・文化のありようを理解する。週に1回行われる授業を通じて、以上の目的を達成する。引き続き、「フランス語初級（速修）Ⅱ」を履修することが望ましい。	
フランス語初級（速修）Ⅱ	フランス語の基礎知識（初級文法後半）を習得することを、講義の主たる目的とする。フランス語の発音と綴り字の関係、基本的な文法や語彙を習得し、その基本的な運用に習熟する。また日本語や英語との対照から、フランス語特有の表現方法に着目し、その背後にあるフランス語的な発想・思考・価値観・文化のありようを理解する。週に1回行われる授業を通じて、以上の目的を達成する。「フランス語初級（速修）Ⅰ」の学習内容を理解していることが履修の前提となる。	
フランス語初級（実践）Ⅰ	実践的な訓練を通じてフランス語の基礎的運用能力（初級会話前半）を習得することを、講義の主たる目的とする。自分について表現するための最低限の表現力を獲得し、日常生活で遭遇する具体的な状況において相手がゆっくり話す場合であれば、簡単なコミュニケーションができるようになる。週に1回行われる授業を通じて、以上の目的を達成する。引き続き、「フランス語初級（実践）Ⅱ」を履修することが望ましい。	
フランス語初級（実践）Ⅱ	実践的な訓練を通じてフランス語の基礎的運用能力（初級会話後半）を習得することを、講義の主たる目的とする。自分について表現するための最低限の表現力を獲得し、日常生活で遭遇する具体的な状況において相手がゆっくり話す場合であれば、簡単なコミュニケーションができるようになる。週に2回行われる授業を通じて、以上の目的を達成する。）「フランス語初級（実践）Ⅰ」の学習内容を理解していることが履修の前提となる。	
ロシア語初級（総合）Ⅰ	ロシア語の文字と発音を習得し、アクセントがついた平易な文章を正確に音読することができるようになる。授業で学んだ基礎文法や語彙・表現を用い、ロシア語で簡単な会話をしたり、自分の身の回りのことについての文章を書いたりすることができるようになる。辞書を使ってロシア語で書かれた簡単な読み物が読めるようになる。	
ロシア語初級（総合）Ⅱ	ロシア語の基本文法の理解をさらに深め、辞書を用いて簡単な会話の聞き取り、作文、会話をできるようにする。パソコンを用いてロシア語の入力やインターネットでの簡単な検索ができるようになる。これらを通してロシア語圏の文化や社会についての知識を得ることでロシア語表現の理解をさらに深める。	
中国語初級（総合）Ⅰ	中国語初学者を対象として、「聴く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく伸ばす。この授業は、1年間で中国語の基礎を固めることを想定した授業の前半部分である。①“ピンイン”と呼ばれる、中国語独自のローマ字表音表記の仕組みを理解し、ピンインを通じて正確な発音ができること、②基礎的な語彙習得、③基本文型／単語の正確な配列方法を理解すること、を主たる目的とする。	
中国語初級（総合）Ⅱ	中国語初級（総合）Ⅰに続く科目であり、1年間で中国語の基礎を固めることを想定した授業の後半部分である。①中国語検定4級程度の文法、文型を理解すること、②教科書にある基本文型を利用した簡単な作文や日常会話ができるようになること、③短い一般向けの文章を、辞書を使いながら読めるようになることを目的として、「聴く・話す・読む・書く」の4技能をさらに高める。	

中国語初級（速修）Ⅰ	中国語初学者を対象として、「総合」の半分の授業時間で、文法の理解を重点に1年間で中国語の基礎を一通り学ぶことを想定した授業の前半である。①“ピンイン”と呼ばれる、中国語独自のローマ字表音表記の仕組みを理解し、ピンインを通じて正確な発音ができること、②基礎的な語彙習得、③基本文型/単語の正確な配列方法を理解すること、を目的とした授業である。	
中国語初級（速修）Ⅱ	中国語初級（速修）Ⅰに続く科目であり、「総合」の半分の授業時間で、1年間で中国語の基礎を一通り学ぶことを想定した授業の後半である。発音の習得を引き続き重視しながら、中国語検定4級程度の文法、文型を理解することを主たる目的とする。教科書にある基本文型を利用した簡単な作文や日常会話の練習も行う。	
中国語初級（実践）Ⅰ	初級（総合）または初級（速修）の履修者が、実践力養成のために併修することを想定した授業である。中国語初級（実践）Ⅱと連続して学ぶことにより、中国語の発音と基礎文法をマスターしつつ、初級レベルの会話力を身につける。教科書に沿って「聴く・話す・読む・書く」の4技能をバランスよく学習するが、Ⅰでは、発音の習得と口語表現、聞き取りの練習に重点を置く。	
中国語初級（実践）Ⅱ	中国語初級（実践）Ⅰに続き、中国語の初級の実践力を高める授業である。さらに正確な中国語の発音を身につけるとともに、基礎文法をマスターする。理解した文法、文型を活用して、日常的な事柄について簡単なコミュニケーションができるよう、実践的な練習をつみ重ねる。	
スペイン語初級（総合）Ⅰ	スペイン語の発音と表記の関係、および初歩的な文法や語彙を習得することを目標とする。「読む、書く、聞く、話す」の基本4技能について、基礎を習得会話やプレゼンテーション等を通して初歩的な発話の訓練を行う。また折に触れ、スペイン語圏の社会や文化、思想について解説する。	
スペイン語初級（総合）Ⅱ	スペイン語における「読む、書く、聞く、話す」の基本4技能の上達を目指す。スペイン語の発音、文法や語彙の理解を補強しながら、会話やプレゼンテーション、ペアワーク等の作業を通して発話の訓練を行う。また、スペイン語圏の社会や文化、思想について折に触れて解説する。	
スペイン語初級（速修）	この授業では、スペイン語での会話やプレゼンテーション等を通して発話訓練を行い、スペイン語の基礎的な文法と語彙、発音やリズムを習得し、頻出する会話表現などを身につける。また折りに触れてスペイン語圏の社会や文化について解説し、これらについての理解を深める。	
スペイン語初級（速修）Ⅰ	スペイン語の基礎的な文法と語彙を身につけ、初歩的な会話能力を養うことを目標とする。視聴覚教材などを用いて、平易な日常会話表現等を学ぶ。視聴覚教材等を通して初歩的な発話の訓練を行うとともに、スペイン語圏の社会や文化に触れ、さまざまなトピックに関する語彙を習得する。	
スペイン語初級（速修）Ⅱ	スペイン語圏の社会や文化についての知識を深めることを目標に、スペイン語の基礎的な文法と語彙を身につけ、視聴覚教材などを用いて、平易な日常会話表現等を学ぶ。また、動画教材の視聴やプレゼンテーション等を通して「聞く・話す」ことの訓練を行う。	

スペイン語初級（実践）Ⅰ	この授業は、日常的によく使われる会話表現の練習と、およびテーマごとの口頭練習を行い、基礎的なスピーキング力を身につけることを目標とする。また、視聴覚教材などを参考に、コンテキストと結びつけた重要表現を学び、対教師またはグループでの実践練習を行うなどして、スペイン語でのコミュニケーションに慣れ、柔軟な会話能力を養う。	
スペイン語初級（実践）Ⅱ	日常的なスペイン語会話能力の基礎を固めることを目標とする授業。生活のなかで頻出する会話表現の練習や、テーマごとの口頭練習などを行う。また、視聴覚教材などを参考に、コンテキストと結びつけた重要表現を学び、対教師またはグループでの実践練習等を行う。	
朝鮮語初級（総合）Ⅰ	はじめて朝鮮語を学ぶ学生を対象とする授業である。文字の仕組みと発音から始め、極めて基礎的な文法知識と最も基本的な単語を駆使して、簡単な自己紹介や日常会話の基礎を身につける練習を行う。朝鮮語習得において発音もたいへん大事なポイントになるため、発音練習も繰り返し行う。	
朝鮮語初級（総合）Ⅱ	初級Ⅰに続く授業である。語尾の活用を中心に、文法の学習をさらに深めて朝鮮語の基礎を固める。簡単な文書を書いたり聞いたりできるようになること、決まり文句としての挨拶などが自然に出てくるようになること、日常生活に出てくる簡単な文章を、辞書を引きながら読めるようになることを目指す。	
朝鮮語初級（速修）Ⅰ	はじめて朝鮮語を学ぶ学生を対象とする授業で、初級速修Ⅱと合わせて、朝鮮語の基礎を一通り身につけることを想定している。文字の仕組みと発音練習から始めて、基礎的文法事項の学習へと進み、その知識をいかしながら簡単な日常会話（聞く、話す）ができるよう練習を行う。	
朝鮮語初級（速修）Ⅱ	朝鮮語初級速修Ⅰに続く授業であり、基礎的文法知識をさらに増やし、朝鮮語の基礎を一通り終える。学習した語彙・文型を用いて、日常会話や作文の練習を行って、簡単なながらも自分の言いたいことを相手に伝えることができるようになることを目指す。	
朝鮮語初級（実践）Ⅰ	初級（総合）または初級（速修）の履修者が実践力養成のために併修することを想定した授業であり、発音練習および会話練習を重点的に行う授業である。ハングル文字の読み書きや基本的な文法構造を習得し、簡単な自己紹介や日常会話の基礎を身につける。	
朝鮮語初級（実践）Ⅱ	朝鮮語初級（実践）Ⅰに続く、会話中心の実践力養成の授業である。発音・基本文型を確かめながら、聴く・話す練習を繰り返し、日常生活に活かせる実践的な会話能力を身につける。自然な韓国語を話せるように、映画などを使った聴きとり練習も行う。	
ドイツ語中級	目標は、ドイツ語の初級文法を一通り学習した学生が、既習内容を復習しつつ、やや長く複雑なドイツ語文章の読解力や、会話におけるドイツ語運用力を高めること。講読を行う演習の形態、学生によるプレゼンテーションやグループワークが適宜組み合わせられる。	
ドイツ語上級	目標は、中級までに身につけたドイツ語の運用力を復習しつつ、より複雑なドイツ語長文の読解力や、会話におけるドイツ語運用力をいっそう高めること。少人数での演習の形態で開講する。	

フランス語中級	フランス語初級の学習内容を補完し、それを多様な状況のなかでよりスムーズに応用できるようになる。また、フランス語圏の文化について理解を深める。読解中心の授業では、辞書を引けば、ある程度高度なテキスト（新聞記事、評論、文芸作品、哲学・思想書など）を独力で理解し、必要な情報を取り出してくることができるようになる。会話中心の授業では、定型表現に習熟し、自分に馴染みのある内容について標準的な表現ではっきりと話されれば理解できるようになる。	
フランス語上級	フランス語中級の学習内容を発展させ、フランス語文法に十分習熟し、状況に応じてかなり自由に使いこなすことができるようになる。読解中心の授業では、かなり高度なテキストを、それほど困難なく読解できるようになる。会話中心の授業では、リラックスした状況であれば、日常生活や学校・職場で必要な内容について、適切な構文と表現で、ほぼ支障なくコミュニケーションがとれるようになる。	
ロシア語中級	ロシア語をより高い水準で使用するために名詞格変化の理解を深め、動詞の用法を詳しく学習する。それらを踏まえて多様なトピックのロシア語文を読み、自ら表現する。辞書を利用してインターネット上のロシア語のニュースなどを理解し、また簡単な手紙やメール文を書けるようにする。	
ロシア語上級	専門的なロシア語テキストの内容を理解し、多様なトピックについてロシア語で意見を述べ対話できるようにする。ロシア語圏の歴史と文化についてロシア語で情報を収集することを通して理解を深める。雑誌の評論などを読み込み、だいたいの内容が理解できるようにする。	
中国語中級（会話）	初級を終えた履修者を対象として、中国語の表現力の土台になる文法力や語彙力を強化しながら、リスニングとスピーキングに重点を置く。日本語や英語とは異なる中国語ならではの表現方法に焦点を当て、より正確な話し方と発音で、できるだけ流暢に自分の意見や思いを伝えられるよう、運用能力を鍛える。	
中国語中級（講読）	中級レベルの講読を中心とする授業である。初級で習得した語彙と文法知識を基礎に、読解のレベルを向上させるため、節と節との関係の把握、複文や各語のもつ言い回しに慣れるための練習を多く行う。日本語や英語との比較から、中国語ならではの表現方法に着目し、その背後にある中国語的な発想（認識枠組み）についても一層の理解を得る。	
中国語中級（作文）	初級で習得した語彙力と文法力を基礎として、作文能力をさらにグレードアップすることを目的とする。例文や文型をなるべく多く習得し、練習を重ねることで定着させる。日常生活の場面からさまざまなテーマを取り上げ、正確に中国語の文章を書けるように訓練を行う。またテキストの読解に欠かせない中国語圏のそれぞれの地域の文化、社会、歴史に関する知識についても解説していく。	
中国語中級（HSK・中検対策）	中級レベルの検定試験（HSK2級～4級、中国語検定4級～2級レベル）対策の講義を行う。特にリスニング力アップに重点を置き、比較的平易で簡潔な文章を数多く聴いて耳を慣らしていく。またHSK・中検の試験形式にも慣れるよう、語法問題等の演習を繰り返す。	講義11.4時間 演習11.4時間
中国語上級（会話）	この授業は、中級を終えた履修者のための、会話を中心とした授業である。ネイティブの会話やディスカッションを聞き取り、対等に話すための文法力と語彙力を身につけるように指導する。幅広い分野からテーマを取りあげ、中国語で自らの見解を論理的に述べ、プレゼンテーションまでこなせる水準を目指す。	

中国語上級（講読）	中級を終えた履修者のための、講読を中心とした授業である。中国語文献の上級レベルの読解力（辞書をひけば、一般的に通用している学術論文、報道文、書籍などを一定の速度で読み、その内容を理解できる程度）の養成のため、中国語で書かれた論文類を和訳する練習を行う。	
スペイン語中級	本講座は、既にスペイン語の初歩的な文法を学んだ経験を持つ受講生を対象に、多様な教材を通して「聞く・話す・読む・書く」の4技能の向上を目指す。また、スペイン語圏の歴史や文化などを調査し、これに親しむことを目標とする。	
スペイン語上級	中級レベルのスペイン語を習得した学生を対象に、多様な教材を用いて、より洗練された読解力や表現力を養うことを目標とする。またスペイン語圏の文化に関する文献やスペイン語の映画などを題材に、表現の幅をさらに広げながら、文法力を強化する。	
朝鮮語中級	既に「朝鮮語初級」に該当する文法を学んだ経験を持つ受講生を対象とする授業である。中級レベルでの文法を学び、それを用いて、自分が言いたいことをおおよそ伝えられ、また簡単な内容で相手がゆっくり話せば大意をつかむことができるレベルを目指す。	
朝鮮語上級	韓国語のコミュニケーション能力のアップをはかると同時に、韓国語を学びながらその言葉を生み出す背景となった韓国文化や社会を学ぶことを狙いとする。韓国語で書かれている短い文をテキストにして、新しい文型や表現などを習得し、テキストの内容をもとに聴く、話す練習も適宜行う。	
アラビア語初級Ⅰ	アラビア語のアルファベットの読み方と書き方を習得する。基本的な文法や語彙を習得し、アラビア語であいさつができるようにする。また日本語や英語との対照から、アラビア語独自の構文や表現方法に親しみながら、アラビア語圏の文化的特徴について理解する。	
アラビア語初級Ⅱ	基本的な文法、文型、語彙を用いた文章を読み、簡単な文章を書く。簡単な表現での発話と聞き取りを行う。アラビア語の核である動詞についてさらに学びながら、語彙を増やし、初級文法を習得する。アラビア語ならではの表現方法に着目し、アラビア語圏の文化的、歴史的価値観をさらに理解する。	
アラビア語中級	初級の学習内容をさらに深め、動詞の派生形など細かな文法を理解し使用する。それらを多様な状況のなかでよりスムーズに応用する技術を習得することで、アラビア語圏の国々に旅行した際に、簡単な意思疎通ができる程度のコミュニケーション能力を獲得する。また辞書を用いて、日常・社会生活に関する文章を読解し、書けるようにする。アラビア語圏の文化、社会、歴史についての知識と理解をさらに深める。	
ラテン語初級Ⅰ	この授業の目的は、受講生がラテン語の基本文法を身につけることである。受講生はラテン語がどのような特徴をもった言語であるかを理解し、また、平易なラテン語文の読み書きができるようになるだろう。なお、続編として「ラテン語初級Ⅱ」が設定されている。文法を一通り学び終えるには、「Ⅰ」「Ⅱ」を通しての受講が必要である。	

ラテン語初級Ⅱ	この授業の目的は、受講生がラテン語の基本文法を身につけることである。受講生はラテン語がどのような特徴をもった言語であるかを理解し、また、平易なラテン語文の読み書きができるようになるだろう。なお、この授業は「ラテン語初級Ⅰ」の続編である。文法を一通り学び終えるには、「Ⅰ」「Ⅱ」を通しての受講が必要である。	
ラテン語中級Ⅰ	この授業の目的は、初級クラスで学んだ文法の知識を復習し確認しながら、辞書を用いて、原典の文章を読む力をつけることである。また、原典を読みつつ各時代のラテン語著作家の思想、社会、政治、宗教、日常生活について理解を深めることである。ラテン語初級Ⅰ・Ⅱを履修済み、またはそれと同等の学力があることが受講要件。	
ラテン語中級Ⅱ	この授業の目的は、初級クラスで学んだ文法の知識を復習し確認しながら、辞書を用いて、原典の文章を読む力をつけることである。また、原典を読みつつ各時代のラテン語著作家の思想、社会、政治、宗教、日常生活について理解を深めることである。ラテン語初級Ⅰ・Ⅱを履修済み、またはそれと同等の学力があることが受講要件。	
ラテン語上級Ⅰ	この授業の目的は、初級及び中級クラスで学んだ文法の知識を復習し確認しながら、辞書を用いて、原典の文章を読む力をさらに高めることである。中級クラスに引き続き、原典を読みつつ各時代のラテン語著作家の思想、社会、政治、宗教、日常生活について理解を深める。ラテン語初級Ⅰ・Ⅱを履修済み、またはそれと同等の学力があることが受講要件。	
ラテン語上級Ⅱ	この授業の目的は、初級及び中級クラスで学んだ文法の知識を復習し確認しながら、辞書を用いて、原典の文章を読む力をさらに高めることである。中級クラスに引き続き、原典を読みつつ各時代のラテン語著作家の思想、社会、政治、宗教、日常生活について理解を深める。ラテン語初級Ⅰ・Ⅱを履修済み、またはそれと同等の学力があることが受講要件。	
ギリシア語初級Ⅰ	この授業の目的は、受講生が古典ギリシア語の基本文法を身につけることである。受講生は古典ギリシア語がどのような特徴をもった言語であるかを理解し、また、平易なギリシア語文の読み書きができるようになるだろう。なお、続編として「ギリシア語初級Ⅱ」が設定されている。文法を一通り学び終えるには、「Ⅰ」「Ⅱ」を通しての受講が必要である。	
ギリシア語初級Ⅱ	この授業の目的は、受講生が古典ギリシア語の基本文法を身につけることである。受講生は古典ギリシア語がどのような特徴をもった言語であるかを理解し、また、平易なギリシア語文の読み書きができるようになるだろう。なお、この授業は「ギリシア語初級Ⅰ」の続編である。文法を一通り学び終えるには、「Ⅰ」「Ⅱ」を通しての受講が必要である。	
ギリシア語中級Ⅰ	この授業の目的は、初級クラスで学んだ文法の知識を復習し確認しながら、辞書を用いて、原典の文章を読む力をつけることである。また、原典を読みつつ古典期ギリシアの社会、政治、宗教、日常生活について理解を深めることである。ギリシア語初級Ⅰ・Ⅱを履修済み、またはそれと同等の学力があることが受講要件。	

		ギリシア語中級Ⅱ	この授業の目的は、初級クラスで学んだ文法の知識を復習し確認しながら、辞書を用いて、原典の文章を読む力をつけることである。また、原典を読みつつ古典期ギリシアの社会、政治、宗教、日常生活について理解を深めることである。ギリシア語初級Ⅰ・Ⅱを履修済み、またはそれと同等の学力があることが受講要件。	集中
		ギリシア語上級Ⅰ	この授業の目的は、初級及び中級クラスで学んだ文法の知識を復習し確認しながら、辞書を用いて、原典の文章を読む力をさらに高めることである。中級クラスに引き続き、原典を読みつつ古典期ギリシアの社会、政治、宗教、日常生活について理解を深める。ギリシア語初級Ⅰ・Ⅱを履修済み、またはそれと同等の学力があることが受講要件。	
		ギリシア語上級Ⅱ	この授業の目的は、初級及び中級クラスで学んだ文法の知識を復習し確認しながら、辞書を用いて、原典の文章を読む力をさらに高めることである。中級クラスに引き続き、原典を読みつつ古典期ギリシアの社会、政治、宗教、日常生活について理解を深める。ギリシア語初級Ⅰ・Ⅱを履修済み、またはそれと同等の学力があることが受講要件。	集中
数理・情報	数学	線形代数Ⅰ	線形代数は、比例のような1次関係式の持つ良い性質（線形性）を扱う数学である。線形性の考え方は、自然科学のみならず社会科学においても、様々な現象を記述・解析する上で必要不可欠である。この講義では、連立1次方程式の解法を背景として、主に行列と行列式の理論について学び、実際に使えるようになることを目的とする。引き続き線形空間（ベクトル空間）や線形写像の理論を扱う《線形代数Ⅱ》を履修することを勧める。 具体的な内容は、行列とその演算、行列の基本変形と階数、連立1次方程式とその解法、逆行列、行列式とその幾何学的な意味、余因子行列とクラメルの公式、空間における直線・平面の方程式などである。	
		線形代数Ⅱ	《線形代数Ⅰ》の続きとして、この講義では、抽象的な線形空間（ベクトル空間）や線形写像の理論について学び、実際に使えるようになることを目的とする。 具体的な内容は、線形空間、線形独立性、基底、次元、線形写像とその表現行列、固有値と固有ベクトル、行列の対角化、内積空間、グラム・シュミットの直交化法、2次形式などである。	
		微分積分Ⅰ	17世紀のニュートンやライプニッツによる微分法の発見に始まり、多くの数学者達によって理論的に精密化された微分積分学は、今日では自然科学のみならず広く社会科学においても、その基礎と発展を支えている。この講義では、主に1変数関数についての微分積分学を学び、実際に使えるようになることを目的とする。高等学校での「数学Ⅲ」の内容は予備知識として仮定しない。また、多変数関数の場合を扱う《微分積分Ⅱ》を続けて履修することを勧める。 具体的な内容は、関数の連続性や極限、微分の定義と計算、関数のグラフや接線の求め方、最大・最小問題、テイラー展開、積分の定義と計算、微分積分学の基本定理、図形の面積、曲線の長さ、広義積分などである。	
		微分積分Ⅱ	《微分積分Ⅰ》の続きとして、この講義では、多変数関数の微分積分学を学び、実際に使えるようになることを目的とする。 具体的な内容は、偏微分の定義と計算、全微分、2変数関数のグラフや接平面の求め方、多変数関数のテイラー展開、陰関数定理、極値問題、重積分の定義と計算、空間図形の表面積や体積、線積分、グリーンンの公式などである。	

線形代数演習	線形代数学で用いられる方法や考え方に基づく演習問題を解く。線形代数学の内容を実践面から補完し、理解を深めることで自ら活用できるようになることを目指す。対応する講義では時間的に触れられない、具体例や興味深い応用を紹介することも一つの目的である。	講義11.4時間 演習11.4時間
微分積分演習	微分積分学で用いられる方法や考え方に基づく演習問題を解く。微分積分学の内容を実践面から補完し、理解を深めることで自ら活用できるようになることを目指す。対応する講義では時間的に触れられない、具体例や興味深い応用を紹介することも一つの目的である。	講義11.4時間 演習11.4時間
線形代数統論	《線形代数Ⅰ、Ⅱ》の内容を踏まえて、線形代数のより発展的な講義を行う。この講義では、ジョルダン標準形の存在と一意性を示すのが主な目的である。具体的には、行列の対角化について復習した後、広義固有空間、ベキ零行列の標準形などについて説明し、ジョルダン標準形とその応用へと進む。双対空間、商空間、テンソル積なども扱う。	
微分積分統論A	《微分積分Ⅰ、Ⅱ》の履修者を対象に、より発展的な講義を行う。微分積分学を中心とする解析学は、実数の連続性の公理の上に構築されている。この講義では、 $\epsilon-\delta$ （イプシロン-デルタ）論法に基づいた極限の厳密な定義から始めて、数列の収束や関数列の収束、ベキ級数の理論などを学ぶ。現代数学の基礎を成す微分積分学について、精密な理解を得ること、実際の問題に応用できるようになることが目的である。	隔年
微分積分統論B	《微分積分Ⅰ、Ⅱ》の履修者を対象に、より発展的な講義を行う。自然科学や社会科学の発展とともに長い年月をかけて築かれた微分積分学は、非常に豊富な興味深い題材をもつ。この《微分積分統論B》では、《微分積分Ⅰ、Ⅱ》を一通り修めた先にある様々な数学：「ベクトル解析」、「微分方程式」、「フーリエ解析」、…などから題材を選んで講義を行う。それぞれの題材について、理論と実践の両方を習得することを目的とする。	隔年
集合と位相Ⅰ	数学の対象や対象間の関係を記述するのに便利な「集合」の概念と「ものつながり具合、近さ」を抽象化した「位相」と呼ばれる概念は、現代の数学を学習していくうえで欠くことのできない知識である。この講義では、集合と位相の基本的な内容について理解することを目的とする。集合については、集合の表し方と演算、写像、同値関係、集合の濃度などを扱い、位相については、距離の定義、距離空間における点列の収束、実数の完備性、連続関数、距離空間における位相など、主に距離空間を中心とする内容を扱う。	
集合と位相Ⅱ	《集合と位相Ⅰ》では距離という概念をもとに、連続性や点列の収束などについて学んだ。距離という概念を一般化・抽象化した「位相」と呼ばれる概念を通じてこれらを捉えなおすと、より本質が見えやすい議論ができるようになる。この講義では《集合と位相Ⅰ》の続きとして、位相空間に関する基礎的な内容を説明する。具体的な内容としては、位相空間の定義、連続写像、コンパクト集合、連結性、凸集合と分離定理、縮小写像と不動点定理などを扱う。	
確率	確率についての入門的な講義を行う。高校数学の確率の復習から始めて、確率分布、確率変数、期待値、分散など、確率論の基本的な概念について解説し、様々な確率分布（二項分布、指数分布、正規分布など）や極限定理（大数の法則、中心極限定理）など確率論の基礎について学ぶ。理論について理解するだけでなく、実際に使えるようになることを目的とする。	

	統計	データ分析とその基礎となる数学について学ぶ。データが持つ情報を整理して見やすくまとめる「記述統計」、およびデータを基にして確率を用いて母集団の特性を推測する「推測統計」の両方について基礎事項を解説し、最終的には(重)回帰分析の初歩までをカバーする。講義中にパソコンを用いたデータ分析の操作方法についても解説し、宿題には実際のデータを用いた分析も課すことにより、理論と実践の両方の習得を目的とする。	
情報	プログラミング基礎	プログラミングは、コンピュータに与える命令のことであり、すべてのコンピュータが何らかの意味でプログラミングされた通りに制御されている。このような意味で、プログラミングは現在の情報技術の基盤技術と言える。この授業では、プログラミングの基礎を学び、理解することで、情報技術に対する理解を深めることを目指す。また、プログラミングを身につけることで、自分自身の思った通りにコンピュータを制御することができる。このような面白さも味わえるようにしていきたい。	
	情報リテラシー	情報科学は、実際のコンピュータについての科学であり、同時に情報理論や計算理論という基礎学問でもあるという両面の性質を持っている。これらのいずれもこれからの社会において必要とされる考え方であり、この授業では、情報科学全体を概観することで、これからの情報社会におけるリテラシーを養う。	
	AI入門	近年のAI技術の発展は目覚ましく、今後、より多くの実世界における問題の解決に役立つことが期待される。それに伴い、AI・データサイエンスなどの言葉を日常で見かける機会も増えてきた一方で、それらがいったいどのようなもので、何がどのように新しいのかということはよくわからないという状況を生んでいるように思われる。この授業では、AI・データサイエンスにかかわる方法の原理、機能を概観し、将来の専門分野において役立つコンピュータ、情報技術を用いた問題解決の方法、考え方を身につけること、AI・データサイエンスの社会活用・留意事項を学ぶことを目標とする。	
理科	生命科学 I	「生命とは何か」、「生命はどのようにして発生するのか」、「生命の多様性はなぜ必要なのか」、「生命科学と社会の関係は?」など包括的に講義し、学生が、生命及び生体の機能等に関する知識や考え方を理解することができるようになることを目標とする。主に、講義形式で行う。	
	物質科学 I	私たちの身のまわりは「物質」であふれている。私たちの生活に欠かせない身近な物質を取り上げながら、その仕組みについて学ぶ。物質に対する正しい知識を身につけるとともに、氾濫するさまざまな情報に惑わされずに、科学に関する知識をもとに、自分で考え判断できるようになることを目的とする。	
	物理学基礎	本講義では物理学の基礎を学ぶ。学生が、単位、物理学における数と記号、物理定数、基本的な物理法則を理解することを目標とする。主に、講義形式で行う。	
	環境科学 I	人間をとりまく環境において、多様な環境問題が生じています。本講義ではこれらを科学的側面から究明します。主に身近な環境問題を取り上げ、問題の特性およびどのような対策が行われているのかについて学ぶことを目的とします。	隔年

生態学	生態学の目標は、生物がいかに生きているかを知ることであり、これは即ち生き物の存在意義の根幹を問うものである。したがって生態学を学ぶことは地球上の生物の一種である人の存在意義を問うことにもつながる。生態学の扱う内容は幅広く、講義内ではその一部を扱うことになる。	
自然科学史（西洋）	古代から現代までの科学の歴史を概観する。自然についての理解の仕方や、自然を研究する人々のあり方は、歴史を通じてどのように変わってきたのだろうか。過去についての理解を深め、今日の科学と将来について考える手掛かりとする。	
自然科学史（東洋）	東アジア地域(中国・日本・朝鮮・琉球諸島)の古代から近代直前までの科学史を概説し、学生が当該地域の伝統的な科学に関する社会的背景、思想、その様態を史学の対象として考察できるようになることを目的とする。主に、講義形式で行う。	
地球環境システム	地球環境システムは気圏、水圏、地圏、生物圏等の自然環境系の中でのみの連関ばかりでなく、人間活動との連関の中で捉える必要性があると考えられている。本講では、地球環境や代表的地球環境問題に関する基礎的知識を習得し、地球環境システムと人間活動との関係及びそこで生じている問題を仕組みと共に理解することを目的とする。	
地球科学	地球の科学、特に固体部分の地球のしくみについて学ぶ。基礎的な知識に加えて、宇宙技術などの現代の科学技術が切り拓く新しい地球の姿を知る。特に「天体としての地球の特徴」そして「地球が生きていること」を感じる機会を提供する。	隔年
宇宙科学	地球以外のさまざまな天体について、そのスケールを感じながら概観する。人間生活にどう結びついているのか、現在の科学者がどのような宇宙像を持っているのか、なぜ宇宙機を使うことが有効なのか、などについて学ぶ。	隔年
サイエンス工房（物理学） A	初歩的な物理実験や演習を行い、学生が物理の法則や原理を学び自然科学の理解を深めることを目標とする。物理実験（演習形式）を行う。	講義7.6時間 演習7.6時間 実験・実習7.6時間
サイエンス工房（物理学） B	初歩的な物理実験や演習を行い、学生が物理の原理を学び自然科学の理解を深めることを目標とする。また、コンピューターによる数値計算・物理シミュレーション演習を行なう。	講義7.6時間 演習7.6時間 実験・実習7.6時間
サイエンス工房（地球科学）A	地球科学に関わる基礎知識を体得するとともに、実験や計測を実施することにより、学生が基礎知識を形にすることを体験し理解を深めることを目的とする。演習形式で、データや成果をまとめて報告することを求める。	講義7.6時間 演習7.6時間 実験・実習7.6時間
サイエンス工房（地球科学）B	地球科学に関わる基礎知識を体得するとともに、実験や計測を実施することにより、学生が基礎知識を形にすることを体験し理解を深めることを目的とする。演習形式で、データや成果をまとめて報告することを求める。	講義7.6時間 演習7.6時間 実験・実習7.6時間

	サイエンス工房（環境科学）A	実験の基礎および環境に関わる基礎知識を学んだうえで、学生が環境に関わる実験を通して、環境に関する知識や考え方を深めることを目的とする。演習形式で、実験、データ解析、プレゼンテーションを行う。	講義7.6時間 演習7.6時間 実験・実習7.6時間	
	サイエンス工房（環境科学）B	実験の基礎および環境に関わる基礎知識を学んだうえで、学生が環境に関わる実験を通して、環境に関する知識や考え方を深めることを目的とする。演習形式で、実験、データ解析、プレゼンテーションを行う。	講義7.6時間 演習7.6時間 実験・実習7.6時間	
	自然地理学	地形学、気候学、水文学、環境地理学といった自然地理学の基幹科目の基礎的事項について理解することを目的とする。日本で頻発する災害について、そのメカニズムや対策について、自分の言葉で説明できるようになることを目指す。		
	環境科学Ⅱ	環境科学の分野で、基礎的なことを理解したうえで、近年ホットな研究について学び、学生がより最先端の研究に触れ、その原理や考え方を理解することを目的とする。主に、講義形式で行う。	隔年	
運動文化	スポーツ方法（春夏）Ⅰ	本科目においては、学生が自ら選んだスポーツ種目やヨガなどの実践を通して①基礎的な体力の維持・向上のための知識・方法の獲得②スポーツ・運動文化についての基礎的能力（技術認識、練習方法、技術習得、組織運営など）の養成③グループ活動を通しての人間関係の形成を目指す。		
	スポーツ方法（秋冬）Ⅰ	本科目においては、学生が自ら選んだスポーツ種目やヨガなどの実践を通して①基礎的な体力の維持・向上のための知識・方法の獲得②スポーツ・運動文化についての基礎的能力（技術認識、練習方法、技術習得、組織運営など）の養成③グループ活動を通しての人間関係の形成を目指す。		
	スポーツ演習	スポーツ演習は、少人数のゼミ形式での学習を通じて健康やスポーツ・運動文化に関する科学的・総合的な認識、高度な教養を身につけることを目指す。 本科目では、教室での講義やディスカッションとグラウンドや体育館、武道場などを使用した実技の授業を有機的に関連させつつ学習を進める。	講義11.4時間 演習11.4時間	
	現代社会とスポーツA	我々はスポーツについて疑問を持たずに実践し、観て楽しむ。本科目では、それがどのような社会的背景のもとで成立するのか、また、それがどのような政治性をもっているのかについて、主にスポーツ社会学やスポーツ経営学などの理論的枠組みを提示しつつ、現代社会におけるスポーツの抱える諸問題について分析する視点の醸成を目指す。授業では、その時点で社会的に注目されているトピックを積極的に扱う。		
人文学	哲学・思想	心理学	心理学は、人間の行動を成り立たせる心のしくみと働きを解明し、それを現実問題の解決に応用してきた。本講義では、心理学の主要な領域である、実験心理学、認知心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学などについて基本的な知見を概説する。また心理学は実証性を特徴とし、これらの知見と研究手法とは分かち難い関係にあることから、実験法を中心に方法論の解説も行う。	

	論理学	まず、言語（日本語）での推論を論理的に把握し、また自ら論理的言明を行うための方法論を学びます。その後、そうした論理を記号で捉えて、形式的に推論の妥当性を確かめる方法を学びます。	隔年
	言語学	言語学とは、人間の最も重要な特質の一つである言語のしくみを解き明かそうとする分野である。授業の到達目標は、言語が多様性と普遍性を兼ね備えていることが理解できるようになること、日常的には気づきにくい言語の不思議さとその魅力が理解できるようになること、言語がコミュニケーション以外の役割を持っているということがわかるようになること、言語を通じて、人間文化の多様性について気がつくことである。授業は基本的に講義形式でおこなうが、適宜討論もおこなう。	
歴史学	台湾の歴史と社会	台湾とは何か。台湾の歴史上の重要な出来事やそれらの意味を説明しながら、現代台湾社会を考えるために必要な知識を身につける。日本や中国など周辺地域、そして国際社会との関係性などを把握し、またエスニックグループ、ジェンダー、言語など複数の視角を通して、台湾社会への理解を深める。関連文献のほかに、文学作品、映像、写真資料なども適宜、取り入れながら解説していく。	隔年
	朝鮮の歴史と文化A	この授業では、「韓国併合」（1910年）から日本敗戦・朝鮮「解放」（1945年）まで、すなわち日本が朝鮮を統治していた時期を対象として、その歴史を概観する。この授業を通じて、「韓国併合」から日本敗戦までの日朝関係に関する知識を身につけるとともに、朝鮮・韓国関連の情報に接する際に歴史的背景をふまえた捉え方ができるようになることを目的とする。	
	朝鮮の歴史と文化B	この授業では、第二次世界大戦終結（1945年）～1960年代頃までの時期を対象に、日本と大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国との関係史について概観する。大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国および在日韓国・朝鮮人をめぐる現状や課題を考えるにあたって必要となる歴史的経緯への理解を深める。	
文学	ドイツ語圏文学	ドイツ語圏の作家や作品を採りあげ、抜粋の精読や作品分析などによって、それぞれにおいて扱われているテーマについて考える。文学史の知識を広げるだけでなく、文学作品について自分の言葉で論じる力を育てる。	隔年
	中国文学	中国文学の対象領域は、歴史的・空間的・ジャンルの非常に広い。古典文学、現代文学、大陸文学、台湾文学、詩文、戯曲、小説など様々あり、全てを単年度の講義で網羅することは難しいため、その一端を講義しつつ、漢字文化圏ゆえ、とかく同種同文と考えがちな中国文化や思考様式を、本講義を通じ正しく認識し、グローバルな文化理解の涵養を図る。	隔年
	外国人留学生のための日本事情A	日本の文学作品を素材として、登場人物の社会的属性や登場人物間の人間関係の理解など日本語の文章のより高度な理解力を養う。さらに、作品の時代的背景を知ることを通して、日本の近現代史、各時代の経済事情といった日本事情の知識の伸長を目指す。	
	国語	本講義は、戦後日本文学（小説）の読解を通じ、その表現、思想、歴史を考察すること、および同時期の文芸上の日本語を味わうことを目的とするものである。文学史を代表する作家の小説を具体的に読みながら、大日本帝国が崩壊した後の日本人がいかなる心理的現実を生きたのかを考察する。	隔年

	日本の言語文化	本講義では、近代日本における「国語」の形成とその帝國的展開、さらには敗戦後の問題などを論じる。そのなかから統合原理としての「国語」のもつ問題をさまざまな形でとりだしていきたい。明治期から現在にいたるまでの言語問題のかたりかたの共通性、異言語認識の変遷、多言語使用に関する意識の変遷などもとりあげることになる。上記の概要を達成することをもって、授業の目的とする。	隔年
人間科学	美術論（西洋）	西洋の文化圏で歴史的に育まれた美術の世界を、時代や地域を限定しながらも幅広い視点で概観することを講義の目的とする。授業では、現在の研究を踏まえて各種の美術作品を多角的に分析する。そして、当時の政治、経済、社会、思想等に関わる時代的背景を学ぶとともに、創造者の発想や独自性の発露に触れ、人間の造形的創造性の可能性を考察する。	
	美術論（日本・東洋）	日本および東洋の文化圏で歴史的に育まれた美術の世界を、時代や地域を限定しながらも幅広い視点で概観することを講義の目的とする。授業では、現在の研究を踏まえて各種の美術作品を多角的に分析する。そして、当時の政治、経済、社会、思想等に関わる時代的背景を学ぶとともに、創造者の発想や独自性の発露に触れ、人間の造形的創造性の可能性を考察する。	
	日本語研究入門	日本語学に関する全体的な知識を得ることを目的とする。ヒトのことばの特徴、言語学の中の日本語学の位置づけからスタートし、音声学・音韻論から社会言語学に至るさまざまな分野の知見を紹介し、言語学的な観点から日本語を分析する目を養うことを目的とする。	
	音楽論（西洋）	ヨーロッパの音楽文化のうち、芸術音楽（いわゆる「クラシック音楽」）の諸相を、とくに18世紀以降における芸術音楽の諸ジャンルの連関を視野に入れながら、ジャンル別に概観します。	
	音楽論（日本・東洋）	民族音楽学入門として、世界の多様な音楽・舞踊の文化の事例について、それぞれの社会的文脈におけるそれらの意味や位置を確かめつつ、地域横断的に人間にとって音楽がどのような行為であるのかを考えます。	
	現代日本語論	「やさしい日本語」の理念とその目的を現在の日本社会との関わりの中で理解することを目的とする「やさしい日本語」の理念に基づいた言語活動（文章表現、口頭表現）が行えるようになることを目指す。	
	総合	ドイツ語圏の社会と文化	ドイツ語圏の過去や現在の文化、社会におけるその意味に関して毎回異なるトピックが選ばれ、そのテーマに対するアクチュアルな、あるいは過去の重要な論点について学ぶことで、ドイツ語圏の特質について学ぶ。
	フランス語圏の社会と文化	フランスをはじめとする世界のフランス語圏の社会と文化について、基本的な知識を獲得し、関心を深めることが、この授業科目の目的である。フランス語圏の諸地域は、フランスとの歴史的・文化的なかわり合いが深いですが、そればかりではなく、地域の文化の独自性や世界の多様性に触れることができる。	
	中国社会論	中国では、1970年代末の改革開放政策の開始以降、飛躍的な経済成長と同時に、社会にも大きな構造変動が生じている。中国社会の特徴や構造変動について、中国現代史の流れをふまえて理解するための基礎的な知識を身につける。その上で、今日の中国社会が直面する問題を、日本との比較やグローバル化の視点も交えながら分析、考察する。	隔年

台湾文化論	日本は台湾を半世紀もの長きにわたって植民地支配を行った過去がある。そうした歴史的な関係だけでなく、近年における台湾の民主的なありようは日本社会でも大きな注目を集めている。本講義は台湾で生み出されたさまざまな文化を、エスニックグループやジェンダーの視点を織りこみながら、その社会や歴史的な背景とあわせて考察する。	隔年
日本文化論	本講義では、近代の日本文化の重要な構成要素となる言語をめぐるさまざまな事象を歴史的に、あるいは政治的に追う。たとえばそれは「国語」の形成に必要とされる辞書にまつわる言説であり、「国語」から排除される一方で包摂されてもいく「方言」をめぐる言説であり、はたまたこうした事象をあつかう学問の成立や学者の学知の問題であつたりする。平板な「日本文化論」におちいらないための複眼的な視点を養うことを目指す。	隔年
外国人留学生のための日本事情 B	日本の中世末期から現代までの歴史を概観する。それぞれの時代の特徴を当時の世界との関係や現在の日本とのつながりの中で理解し、受講者自身の母国との歴史や現在の世界を見る際の新たな視点を養う。同時に、日本語の中の歴史的背景を有する語や表現を取り上げ、日本語能力のレベルアップを図る。	
海外留学スキル・トレーニング	本授業は、今後、海外留学（長期・短期含む）を目指した学生を対象とし、異文化コミュニケーション能力、海外での学習スタイルの違いなどを学び、「アウェーで活躍できる能力」を習得することを目指す。	
海外留学と国際教育交流	短期～長期の海外留学を希望している学生を対象とした授業であり、受講者は自らの海外留学目的について積極的に考え、それに向けて準備することが可能となる。そのために必要な知識や情報が得られるように、海外留学・研修に関する潮流についてミクロとマクロの視点から学習すると共に、具体的な留学の仕方について事例に沿って学ぶ。	
教育と経済	教育は誰にとっても身近である一方、教育がもたらす効果と影響は多岐にそして長きに渡る。本講義では教育と経済との関係に焦点をあてる。教育がなぜ、どのように個人や社会を豊かにするのか、教育機会の平等は社会・経済的平等につながるのか、国際化が進む社会・経済において教育の目的、内容、運営はどのように変わるのかなど、現代社会の継続的課題を経済学理論と実証研究結果をもとに考察する。	
教育と経済開発	発展途上国と先進国の経済格差は大きく、世界は不均衡である。本講義では不均衡是正を目指す先進国から途上国への教育開発支援に焦点をあてる。前半は教育と経済開発を考える理論的枠組みを習得し、後半はグループに分かれて事例研究を行いその成果を発表する。グローバルな視野から教育の意味、仕組み、役割を考え、途上国における教育と学習に発展国の支援政策と実践が作用するダイナミクスを考察する	
一橋大学の歴史	近代日本の発展を牽引した一橋大学の歴史と現在、また未来を考察する。商法講習所の設立（1875年）以来、本学は激動する世界のなかでわが国の近代化に多大に貢献した。特に人材育成面での功績は世界的にも注目されている。学生たちは大学で何を知り、何を学んだのか。教授陣は、世界の学界で活躍しながら、日本の社会や経済をどう導き、学生たちに何を教えたのか。新たな歴史を刻み始めたわれわれ自身の歩みを考える上で、本学の歴史に学ぶ意義は大きい。	隔年

ジェンダーと人権	社会や法におけるジェンダー（性差）、セクシュアリティの意義や課題について、人権論の視点（「ジェンダー人権論」）からアプローチする。日本の男女共同参画（ジェンダー平等）の現状と課題を総点検し、人権論としてのジェンダー問題を、政治、雇用、家族、学術分野等の領域ごとに具体的に検討する。	
教育心理学 I	教育現場における子どもたちを把握するために、様々な心理学的知見を理解することを目的とする。内容は、児童・生徒の心身の発達、記憶や学習の仕組み、パーソナリティや学級内の人間関係、教育評価などであり、教育に関係する心理学領域を幅広く取り扱っていく。	
囲碁—文化としての戦略思考—	囲碁の歴史を学び、そののち基礎トレーニング、対戦へと推移する。決め打ち碁（模範的な碁を並べ、途中から打つ）で布石の考え方を身に付け、初心者でもすぐに終局まで打てるようにする。囲碁のパターンを言葉で表したものを多用し、言葉をキーにして技術の上達を図る（理解を基礎にした技術の学修）。模範碁の解説及び対局による実践を重ね囲碁の思考法戦略を身に付ける。文化、歴史的素養の学修と考える力（ロジカルシンキング）、集中力、コミュニケーション能力等を高めることを目的とする。思考ツールとして囲碁を利用し、教養と思考力向上に資することを目的として講義をおこなう。伝統文化として伝承されてきた囲碁を学ぶことにより、教養として資する文化の学修と思考力「先読み力」を培う。また囲碁は認知機能のなかで、思考力、短期記憶力、総合的な作業力向上に効果があり、特に短期記憶の向上は、集中力と作業効率の向上という、学生生活に必須の素養の基礎鍛錬、向上に資するものである。	
ドイツ語圏地域文化論	ドイツ語圏の過去や現在の文化に関して、毎年異なるトピックが選ばれ、そのテーマに対するアクチュアルな、あるいは過去の重要な論点について学ぶことで、ドイツ語圏の特質について学ぶ。	
スペイン語圏地域文化論 （中南米）	中南米諸国のスペイン語圏文化や歴史、芸術の概観を視聴覚教材などを併用して学ぶ。また、リーディング教材や視聴覚教材などを通じてスペイン語圏内の文化の多様性についても考察し、日本その他の国や文化との比較の視点を持ちつつ、その理解を深めていく。	
スペイン語圏地域文化論 （スペイン）	講義やディスカッションを通じて、スペインの言語、社会、宗教、歴史等の概観を学ぶ。リーディング教材や視聴覚教材などを用いて学習し、スペイン語文化圏への理解を深める。また同文化圏の多様性についても考察し、日本その他の国や社会との比較の視点をも身につけていく。	
日本文学	本講義は、近代日本文学（小説）の読解を通じ、その表現、思想、歴史を考察すること、および同時期の文芸上の日本語を味わうことを目的とするものである。文学史を代表する作家の小説を具体的に読みながら、近代世界に足を踏み入れた日本人がいかなる心理的現実を生きたのかといった問題を考察する。	隔年
異文化交流研修（春季・スペイン企業派遣）	海外留学経験を有する学生向けに、海外でのフィールドワークや企業派遣に参加する実践型プログラム。プロジェクト体験を通じ視野を広げ、文化の違いを越えて協働する力を蓄え、アウェーで実力を発揮できる自信を体得することを目標とする。	

	キャリア科目	如水ゼミ	「国際的に活躍するビジネスの第一線で活躍する産業界のリーダー＝キャプテンズ・オブ・インダストリーの育成」に焦点をあてた講義である。当該講義では、一橋大学同窓会である如水会の協力を得て、各業界で活躍する卒業生をゲストスピーカーとして呼び、学生とゼミ形式で対話を行う。仕事・業界への実践的理解を深め、学生のキャリア形成、キャプテン養成に寄与することを目的としている。	講義11.4時間 演習11.4時間
国際交流科目	Japanese Language	Introduction to Japanese Language	日本語をまったく学んだことがない、あるいはほとんど学んだことがない人のためのコースである。日常生活での簡単な会話に必要な「話す」「聞く」の基礎とに重点を置く。授業では、実践的な場面を想定した練習を行い、学生が短期間で日本語によるコミュニケーションが取れるようになることを目指す。	
		Basic Japanese I	日本語をまったく学んだことがない、またはほとんど学んだことがない人のためのコースである。日本での日常生活に必要な会話、読み、書きの基礎能力を身につけることを目的とする。授業は様々なアクティビティにより行う。	
		Basic Japanese II	日本での日常的な学生生活に必要な会話、読解、作文の基礎能力を身につけることを目的とした授業である。この授業では、初級の文法と語彙の後半部分を習得し、簡単な日本語の文章も読めるようになることを目指す。	
		Intermediate Japanese I	中級前半のレベルの文型の導入を行い、実際に使える能力を養成する。到達目標は、中級初めの言葉を「読む」「聞く」「話す」「書く」全部の技能で使えるようになることである。1) 新しい文型・表現を理解し、覚える、文を作る。2) 日本の文化や社会、生活について短い文章を読み、書いた人の考え・意見を理解する。3) 発表を聞いて、発表者の考え・意見を理解する。4) 自然なスピードの話聞き取れるようになることを目標とする。	
		Intermediate Japanese I Reading	中級レベルの文法と語彙を使って書かれた文章を読み、読解の基礎力を養成する。文章を素早く読みテーマと大意を理解できるようになること、文章の中から素早く必要な情報を見つけられるようになること、文章の論理展開を考えながら読めるようになること、筆者の主張を理解できるようになることを目標とする。	
		Intermediate Japanese I Writing	中級前半レベルの文法・語彙を使って、適切な表記・表現で自分の考えを書くことができる力を身につける。日常生活でよく使うトピックを選び、文章の構造やスタイルを考慮しながら書くことを学ぶ。単純な短い文から、より複雑な長い文を組み立て、まとまった内容の文章を日本語で書けるようになることを目標とする。	
		Intermediate Japanese I Speaking	中級初めのレベルの文法・語彙を使って、説明や意見などを詳しく話すことができる力を身につける。「カジュアルな場面で使う表現」と「フォーマルな場面で使う表現」を正しく選んで使えることや簡単なプレゼンテーションができるようになることを目標とする。	
		Intermediate Japanese I Kanji & Vocabulary	中級前半レベルの漢字・語彙を学び、漢字で書かれた語彙の知識を増やす。中級レベルの漢字・語彙の基本的な力をつけ、中級レベルの漢字語が文章の中で正しく音読できること、及び、漢字が多い文章が理解できるようになることを目指す。	

	Intermediate Japanese II	中級レベルの文法、語彙を学び、読む、聞く、話す、書くの総合的な能力を養成する。1) 新しい文型／表現を理解し、覚えた文型／表現を会話、または書いたものの中で使えるようになる。2) 文章の内容を理解し、スムーズに読み、自分の考え・意見を話せるようになる。3) 勉強した表現を使って自分が言いたいことや考えを書いて表現できるようになる。4) 自然なスピードの会話がわかるようになり、自然な会話ができるようになることを目標とする。	
Japanese Affairs	Explore Japan	この授業は、日本文化の地域的・伝統的・現代的な側面を紹介する1学期の授業であり、主にグループワークにより行う。この授業は主に英語で行うが、適宜日本語による補足も行う。交換留学生のみ履修可能。	
	Japanese Culture A	この授業は、自国とは異なる文化を持つ人々と暮らし、コミュニケーションするためのパラダイム（メンタルモデル）を身につけることを目的としている。この授業では、まず文化一國レベルの文化とは何か、そしてそれが人々のコミュニケーションにどのように反映されているのかについて検証する。次に、文化を検証するアプローチの1つであるGeert Hofstedeの5つの次元について詳しく解説する。これらの次元を用いて、学生の出身文化間の行動パターンを明らかにし、異なる文化について推測することで、異なる文化的背景を持つ人々と効果的にコミュニケーションを取る方法を検討する。また、この授業では、恥と罪の文化、ウチとソト、異文化間コミュニケーションの研究、より広い文化的文脈の中のマイクロ文化の問題、そしてステレオタイプがコミュニケーション行動に与える影響など、他の文化的関心事についても扱う予定である。なお、この授業で扱う事項は、言語的・非言語的規範、文化におけるコミュニケーションのルールやエチケット、カルチャーショック、交渉、多文化チームワーク、リーダーシップと意思決定、異文化コミュニケーションにおける倫理問題などを含むものであり、かつそれだけにとどまるものではない。	
	Japanese Culture B	この授業は、日本のビジネスパーソンと自信を持って、また上手に交流するために必要な異文化間能力を身に付けることを目指して、異文化に関する理論や研究をビジネス実践に取り入れようとする学生を支援することを目的とする。この目標を達成するために、この授業では理論的ディスカッションと異文化間の感受性に関するワークショップの両方を行う。この授業では、文化的な想定、ルール、基準、価値観の明示的・暗黙的なセットによって、人々がどのように異なるビジネスを実践しているかを、比較手法を用いて詳しく見ていく。	
	Japanese Education A	この授業の目的は大きく2つある。第一の目的は、日本と母国との教育制度の比較理解を深めることである。第二に、現代日本の教育制度と関連する政策・実践について検証し、日本社会への影響を認識することである。これらの目的を達成するために、学生は自国の教育制度の成功と失敗に関する知識と経験を他の学生と共有し、クラスでの活発な議論に貢献することが期待される。特に、日本と学生の母国で展開されている教育政策、実践、課題に関する比較分析を行うことに重点を置く。	

ソーシャル・データサイエンス学部教育科目	学部導入科目	ソーシャル・データサイエンス入門Ⅰ	ソーシャル・データサイエンスの全体を知るための授業であり、大学での学びとは何か、社会科学とは何か、データサイエンスとは何かについて紹介し、ソーシャル・データサイエンスが対象とする社会科学およびビジネス・社会課題の各領域について、データ分析事例を紹介しながら、その全体像を概観する。また、学生には、ソーシャル・データサイエンスの学び方についても理解させ、グループワークを通じてソーシャル・データサイエンスの未来についても展望させる。	講義13.5時間 演習9.25時間
		ソーシャル・データサイエンス入門Ⅱ	従来、テクノロジーが産み出す新たな装置は、社会の仕組みを変え、ライフスタイルを変えてきた。今日では計算機資源やデータ、ものづくりの民主化が進み、社会やライフスタイルのビジョンを実現する形でテクノロジーを駆使したサービスやシステムが構築される時代になりつつある。本講義では、ローカルそしてグローバルな課題を洞察し、社会システムをデザインするビジョンからソーシャル・データサイエンスを駆使する課題達成の視点を涵養する。	講義9.25時間 演習13.5時間
		ソーシャル・データサイエンスの法と倫理	データを用いて社会に有益な知見を得るための、データサイエンスの社会実装に不可欠な法と倫理の関係の基礎と背景、ビッグデータの利活用の前提となるデータの収集やデータガバナンスに関係した法制度、データを解釈し、分析をおこなって実際に活用する際に必要となるデータに関する法と倫理の基礎知識を学ぶ。とくにビッグデータの分析と取扱いに関する倫理基準、データとプライバシーに関する法制度の展開について学ぶ。	
	社会科学科目（経営・経済系）	社会科学入門（経営学）	この講義の目的は、経営学の基礎的な概念や考え方を身に付けることによって、企業経営に関する様々な現象を読解する力を養うことである。 講義の内容は以下のとおりである。 ・全体概要：「経営学への招待」 ・機能別トピック：「マーケティング」、「生産システム」、「研究開発マネジメント」 ・経営戦略論：「事業戦略（競争戦略）」、「企業戦略（全社戦略）」 ・経営組織論：「マクロ組織論（Organization Theory）：組織構造と設計」、「ミクロ組織論（Organizational Behavior）：個人と組織の意思決定」、「人材マネジメント」 ・総括：「社会の中の企業」	隔年
		社会科学入門（マーケティング）	受講生がマーケティングの基礎的な考え方と知識を習得し、マーケティングの様々な活動に興味をもつことを目的とする。すべての受講生が、マーケティングの特徴、重要な概念や用語が理解できるようになることを目指す。少し上のレベルを目指す受講生は、講義で説明した概念や教科書に記述されている内容が、実際の企業等のマーケティング活動と、どのように対応しているかを自分で考えて、解釈できるようになることを目指して欲しい。さらに、マーケティングを専攻したい学生には、本講義で学んだ知識を土台に、自分で、応用知識や、可能ならマーケティングに係る活動を実践できるようになって欲しい。基本的には講義形式だが、可能なかぎり、受講生の考えを聞きながら進めていきたい。	隔年
		社会科学入門（会計学）	会計は経理部門のひとや会計士などの会計の専門家だけでなく、すべてのひとが知っておくべき基礎的教養である。そのような会計リテラシーを身に付けることがこの講義の第1の目的である。あわせて、会計について深く学ぼうとする学生が、今後の学習、研究のために前提として知っておくべきことを身に付けることもこの講義の重要な目的である。企業や社会における会計の役割を理解するとともに、複式簿記の原理、会計の考え方、財務会計や管理会計の基礎など、会計についての基礎的知識を習得することを到達目標とする。	隔年
		社会科学入門（金融）	金融のミクロ的側面とマクロ的側面の理解に必要な基礎的内容について講義する。コーポレートファイナンス、ポートフォリオ理論、金融派生商品、資金循環、金融政策などに関する基本概念や分析のフレームワークを学習し、企業・個人と金融の関わり及びマクロ経済の金融的側面の理解に必要な基礎知識習得を目指す。新聞等で報道されている金融に係る様々な現象の背景にある基本的メカニズムを理解することが本講義の到達目標である。	隔年

		社会科学入門（経済学）	経済学は人間（とその集合体）の行動（意思決定）に関する学問なので、人間の行動すべてに適用できる（もちろん、経済学で人間の行動のすべてが分かるという意味ではない）。経済学は人間の行動の謎を解く道具のひとつであるが、この講義は、そのような謎解きの道具の意味と使い方の基本を習得し、「その次」（さまざまな分野へのより高度な応用）に向けての基礎を固めることを目的とする。基礎的な理論の習得を通して「経済学的な考え方」を身に付けてもらうことが、この講義の到達目標である。ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎に加えて応用分野を紹介し、実証分析の方法にも触れる。政策や制度の変更が個人や企業にどのように影響するのかわかるとデータを駆使して計量的に正しく検証する、因果推論の方法と事例を紹介する。	
	社会科学科目（法学・政治学・その他の社会科学系）	社会科学入門（法学）	法学部以外の学部在籍の学生が、法学の基礎を学ぶことを目的とする。具体的には、法の基本的な枠組みについて理解したうえで、いくつかの具体的な事例の検討を通じ、法とその適用のあり方、それらが社会において果たす役割について学ぶ。	
		社会科学入門（社会学）	授業形態：本授業は、講義形式でおこなう。 目標：本授業は、（1）社会科学を構成している理論と方法に関する基本的な知識を習得し、そのことで社会科学の全体像を把握すること、（2）これから社会科学を学ぶにあたって必要となる心構えを身に付けること、この2点を目標とする。 授業計画等の概要：講義の前半では、社会科学の方法論的立場について概説する。まずエミール・デュルケームに代表される方法論的集合主義について述べ、次にマックス・ヴェーバーに代表される方法論的個人主義について述べる。そのうえで、二つの方法論的立場が20世紀後半の社会理論においてどのように統合され、相互に取り入れられていったかを確認する。講義の後半では、研究を進めていく際の具体的な方法について概説する。まずフィールドワークに代表される質的研究について述べ、次に計量分析に代表される量的研究について述べる。そのうえで、計算社会科学を中心とした近年の動向を紹介する。	
		社会科学入門（歴史学）	本講義は江戸時代の歴史を英語で紹介し、世界史に位置づけながらその特徴を検討する。徳川の支配体制のもとで、日本列島に新しい社会がどのように形成し展開したかを辿り、武士身分のみならず、百姓や町人などの一般民衆、被差別民など周縁の人々にも焦点を当てて、彼らが生きていた家、村、町、仲間などの社会集団やジェンダーの構造にも注目し、歴史主体としての民衆に重点を置きながら日本近世の政治、経済、科学、思想、対外関係など諸テーマに接近する。世界的に見ても大量の地方文書を残し、多種多様な出版文化を有していた近世日本を、さまざまな文字史料や画像史料をまじえて鮮明に描き出す。	
		学部基礎科目	経営戦略論とデータサイエンス	この講義では、「社会科学入門（経営学）」の知識を前提として、データサイエンスの観点から捉えた経営戦略論について学習する。経営戦略の基本である、外部環境分析（市場や競合ポジションなど）、内部環境分析（文化や組織能力など）、計画策定（ビジョン、全社戦略、事業戦略、KPIなど）のそれぞれについて、どのようなデータに着目し、どのような分析を行うべきか、というデータ分析の方向性について、最新の研究例を紹介しながら議論する。その議論をもとに、有価証券報告書などの実際のデータを対象に、RやPythonを使ったデータ分析演習も行う。
		マーケティングとデータサイエンス	多くの企業は、マーケティング活動を通じて製品開発や広告戦略、販売戦略を検討・実施している。本講義では、商品やサービスの開発、或いは価格設定、広告プロモーションなどの戦略と消費者の購買行動といった幅広い領域に関するマーケティングの理論と、事例を用いつつ、データサイエンスの観点もふまえて説明する。このようなマーケティングに関する幅広い知識を獲得することを通じて、社会や環境変化への対応力や問題解決能力を育むことを目的とする。マーケティング理論に関する基本的な知識を身に付けることで、今後のデータを用いた実証的なマーケティング分析のための基礎とする。	

	ファイナンスとデータサイエンス	本授業は、学生がファイナンスの基礎理論を理解し、実証分析に触れることを目的とする。ファイナンスの基礎理論として、ポートフォリオ理論（投資家の選好、CAPM、APT、グローバル投資）、オプション評価理論（二項モデルとブラック・ショールズモデル）、市場の効率性について講義する。また、学部発展科目の「金融市場データ分析」に繋がるよう、それらの実証分析や、資産価格のボラティリティのさまざまな推計方法についても講義する。そのために必要な統計学、回帰分析の基礎事項やオプション評価理論のブラック・ショールズモデルで用いる確率微分方程式についても講義する。	
	ミクロ経済学とデータサイエンス	この授業では、消費者理論、企業理論、一般均衡、厚生経済学、不完全競争などのミクロ経済学の基礎知識を習得し、データサイエンスの観点もふまえてミクロ経済学に基づく実証分析に触れる。それによって、他の授業で学ぶ政策効果のデータ分析の経済理論の基礎を学ぶ。この授業では、学生は経済理論を学ぶだけではなく、経済理論を実際に実証的に検証し、またデータの分析結果を理論的に解釈する際の基本的な考え方を学ぶことによって、経済理論の現実社会への応用の基礎を学ぶ。	
	マクロ経済学とデータサイエンス	この講義の目的は、マクロ経済学に関連するデータと理論モデルについて基本的な知識を学ぶことである。さらに、データと理論モデルを結びつけるマクロ実証分析の方法についても、データサイエンスの観点もふまえて取り上げる。具体的には、まず国民経済計算や物価指数といった基本的なマクロ経済データの性質について解説する。そして、理論モデルとして、IS-LMモデルやマンデル＝ブレミングモデルといった学部レベルのマクロ経済モデルを概観した後、近年のマクロ経済分析の中心であるミクロ経済学的基礎付けを持つマクロモデルを紹介する。さらに、データ分析として、VARモデルや動学的確率一般均衡モデルの推計手法の概要とその演習を行う。	
社会科学科目（法学・政治学・その他の社会科学系）	行政法とデータサイエンス	本講義では、データサイエンスに関連する法分野として特に重要な行政法について、法制度の基本的な構造を学ぶ。具体的には、行政法とは何か、行政活動の法的規律としてどのようなものがあるのか、行政を担う主体にはどのようなものがあるのか（以上がいわゆる行政法総論の問題）、行政活動により損害を被った私人が金銭的な損害の填補を受けることができるのはどのような場合か（いわゆる国家補償法の問題）、といった問題を扱う。本講義は、受講者が講義終了時に以下の知識や能力を身につけていることを目標とする。 ・行政法総論と国家補償法の概要を、条文や講義上の概念を手掛かりとしつつ説明できる。 ・行政実体法あるいは行政手続法の解釈論上の論点について、判例を手掛かりとしつつ説明できる。 ・具体的な紛争事案について現行法制度の論理に適合的な解決を提示することができる。	
	政治学とデータサイエンス	私たちはなぜ国家を、そして、政治を必要としているのだろうか？ 私たちにとってより望ましい社会はどのようにしてつくることができるだろうか？ 本講義では、こうした原理的な問いに立ち返って政治学の基礎的な事項と政治学における議論の枠組みを学び、政治を歴史的な視点と比較の視点からとらえていくことで、政治現象を学問的にとらえるための視座を提供する。併せて、データサイエンスの観点もふまえて政治学を研究する方法についても解説する。第I部ではまず政府がなぜ必要なのか、それはどのような危険を有するのか、そして、それは歴史的にどのように発展してきたのかを学ぶ。第II部では民主主義の多様性について学んでいく。ここでは、権力の分立と融合を軸として、政治制度の多様性とそれぞれのメリットとデメリットについて学び、政治の仕組みを比較の観点から考察する。第III部では私たちがどのようにして政治と関わっていくのかを学ぶ。	
	国際政治とデータサイエンス	国際政治学は国際社会を対象とした学問であり、国際社会全域における制度や勢力、経済や法、そして文化の問題が相互関係をして生じる秩序と変化を記述し、展望するものである。本講義では、日本やアジアを中心とした国際関係の構図や変化の要因を学ぶ。国際政治の基礎概念を概観した後、国際政治を構成する原動力の中でも、特に文化と経済の側面を取り上げ、日本の文化と経済が世界に与えた影響を、中国や韓国の事例と比較しながら論じる。また、国際政治をデータを基に捉えるための手法についても学ぶ。	

	心理学とデータサイエンス	心理学自体は、19世紀末に生まれた比較的新しい学問ではあるが、人の心理は古くから我々の興味対象であったし、その科学的な理解を目指した取り組みが行われてきた。その中で、心理学は実験と観察、調査による人の心の科学的理解を目指す学問として現在まで続いている。近年のビッグデータ、人工知能の発展は、このような心理学が行ってきた取り組みを飛躍させる可能性を持ち、これらの技術は、新しい手法として徐々に人の心の科学的理解に取り入れ始めつつある。この授業では、人の心の科学的理解についてのこれまでの疑問と取り組みについて学ぶとともに、最近の研究成果に触れることで、今後の心の科学の在り方を考える。併せて、データサイエンスの観点もふまえ心理学を扱う方法についても解説する。	
統計学 科目	回帰分析 I	この講義では、様々なデータ科学分野における基礎となる回帰分析について入門レベルから解説する。はじめに、変数間の関連性をどのように要約するかを学ぶ。次に、線形回帰モデルを定義し、最小二乗法による推定を解説し、その推定結果の妥当性や解釈方法について学んでいく。具体的には、推定量の不確実性、仮説検定、および、信頼区間などを学ぶ。さらに、より現実のデータに則した形でモデルの仮定を緩めていき、それによって起こる問題にどう対処すればよいのか講義する。	
	回帰分析 II	この講義では、回帰分析 I の知識を前提として、回帰分析のいくつかの発展的な内容について学習する。まず、ある種の非線形回帰の枠組みである一般化線形モデルについて概観し、特に質的従属変数を扱うロジスティック回帰について詳しく見る。さらに、切断・打ち切りのある従属変数を適切に扱うための方法として、トビットモデルを学ぶ。後半の講義では、回帰分析 I で扱った線形回帰モデルに立ち返り、説明変数の数がサンプルサイズよりも大きい高次元の場合について考える。具体的には、リッジ回帰による多重共線性への対処を踏まえ、 l_1 正則化付き回帰として知られるLasso回帰を導入し、その性質と限界について議論する。	講義16時間 演習6.75時間
	因果推論	本講義では統計学や経済学の入門・基礎科目で学んだ手法を、どのようにして実際の状況において因果性を識別するように使うかを学ぶ。それによって、独立変数を動かして従属変数を希望通りに変えようとする政府や企業の政策を実証的に評価し、政策提言を行うことができるようになることを目的とする。内生問題とは何かをまず学び、それを克服するための方法を、狭義の計量経済学的手法に限らず、実験室における経済実験、フィールド実験、そして現実に生じる疑似実験等の考え方にに基づき、理論と実証両面から議論する。	
	数理統計学	この講義では、推測統計学の基礎を学習する。まず確率論の復習として確率変数や分布、モーメントといった概念の復習からはじめ、正規分布などいくつかの重要な確率分布の性質を学ぶ。そのうえで、ある母集団分布（特に正規分布）から無作為抽出された標本について、その標本分布の性質を学習する。さらに、大数の法則と中心極限定理について簡単に説明する。それに基づき、分布のパラメータの点推定と仮説検定の理論を概観していく。推定論では特にモーメント法と最尤法を取り上げ、それら推定量の構成方法と統計的な性質について学ぶ。最後に仮説検定の方法論とt検定等の具体例、そして検定が抱える2つの誤差について学習する。	講義16時間 演習6.75時間
	公的統計	公的統計は、私たちが暮らす社会経済全体の実態を示す重要な情報源である。公的統計によって、人々の消費行動や働き方、企業の生産活動をはじめ、社会経済におけるさまざまな活動の状況を把握できる。本授業を通じて、主な公的統計の作成方法と特徴を学習し、公的統計の使い方とその留意点を理解したうえで、実際の分析で公的統計を活用できるようになる。また、いわゆるビッグデータと公的統計の特徴を比較し、両者をいかに使い分けるかについても学ぶ。	講義16時間 演習6.75時間

情報・AI科目	実践的機械学習Ⅰ	機械学習によるデータ分析技術は、単なる機械学習手法の理解に止まらない、仮説設定、データの前処理、分析結果の評価・実装といった一連の技術の理解が必要とされる。本授業では、実データに対して機械学習によるデータ分析を実施するために必要な技術の習得を目的とする。	講義11.4時間 演習11.4時間
	実践的機械学習Ⅱ	人間行動や社会現象の理解において、機械学習モデルや計算機シミュレーションは大きな役割を果たしている。この授業では、「強化学習やベイズ学習などによる人間行動のモデリング」、「マルチエージェントシミュレーションによる社会現象のモデリング」の理論と実装を理解し、そのためのプログラミング技術を身に付けることを目指す。	講義11.4時間 演習11.4時間
	AI（人工知能）	本科目では、AI（人工知能）に関する応用技術のうち、特に日常生活でも触れる機会の多い諸技術について学ぶ。具体的には、質問応答（QA）システム、チャットボット、スマートスピーカー、情報推薦（レコメンド）・あいまい検索などである。これらの技術の原理についての理解を深めることで、より効果的に利活用できるようになることを目指す。	講義16時間 演習6.75時間
	ベイズ統計学Ⅰ	本講義では、現代統計学・機械学習の基礎となるベイズ統計学の理論面を中心に学習していく。前半では、議論に必要な確率論の導入と頻度主義との対比によりベイズ統計のイメージを把握する。その後、ベイズの重要な概念である事前分布や事後分布、予測について解説していく。後半では、より実践的な線形回帰モデルやベイズ推定量、ベイズ因子による検定やモデル選択について説明していく。また、重要な推定手法であるマルコフ連鎖モンテカルロ法の解説を行う。より詳細には「ベイズ統計学Ⅱ」において、演習を交えて学習していく。	
プログラミング科目	プログラミングⅠ	この授業では、プログラミングの基本を確認し、プログラミングの技術と知識を、データ処理、数値計算や問題解決に結びつけることを目的とする。また、それに関連する情報科学の基礎についても学習する。	
	プログラミングⅡ	インターネットに関する技術全般について、講義とプログラミング演習を通して学ぶ。プログラミングの方法それ自体を学ぶのではなく、インターネットを構成する諸技術についての理解を深める手段としてプログラミングを用いる。HTML/CSSを用いたウェブページの作成からはじめ、サーバー、検索エンジン、ならびに対話的なウェブシステムについて最低限のライブラリを用いて開発する。	講義11.4時間 演習11.4時間
	アルゴリズム	アルゴリズムとは、入力として値を受け取り、出力する値に変換する明確に定義された計算の手続きであり、コンピュータによる計算の中心的問題である。この授業では、様々なアルゴリズムについて学ぶことで、計算効率、誤差などの計算にかかわる事象とその原理を習得するとともに、ソーシャル・データサイエンスにおける計算処理の役割を学ぶ。	講義16時間 演習6.75時間
	データ可視化	大規模な統計データが蓄積されていくだけでなく、IoTやソーシャルメディアの発達は日々大量のデータを生み出してきている。ビッグデータを理解して適切な行動を取るためには、そのデータの意味するところを瞬時に捉えられる技術が必要とされる。本講義では、様々な種類のデータの可視化手法と人や社会の理解を促すためのデータとのインタラクション手法を学ぶ。さらに、バーチャルリアリティやアクセシビリティ等、視覚によらないデータ理解に関しても取り扱う。	講義16時間 演習6.75時間
	データベース	授業の前半ではデータベースの基礎（データベースの概念、データモデル、データベースの種類）や代表的なデータベースであるリレーショナルデータベースシステムの設計・正規化、問合せ、システム構築・運用について学ぶ。授業の後半では、分散型データベースのうち、ビッグデータと呼ばれる大規模データの管理を想定して設計されたNoSQLの主要な概念を学習し、演習を通してその定着を目指す。	講義11.4時間 演習11.4時間

		データハンドリング	大規模データや多様なデータを扱う場合、データを適切に管理することで効率的・効果的に処理・分析を行うことが可能となる。本科目では、データのエンジニアリングの側面について具体的な手法を学ぶ。具体的には、データライフサイクル、バージョン管理、メタデータの付与、レポジトリとその管理、前処理手法と後処理手法、データ健全性の検証などについて学習する。	講義11.4時間 演習11.4時間
学部 発展 科目	社会科学 科目 (ビジネ ス・イ ンペ ーシ ョ ン 分 析 科 目)	データに基づく経営意思決定	この講義では、「経営戦略論とデータサイエンス」の知識を前提として、データを使って経営の意思決定の質を高めるための方法論について学習する。実際の企業の経営課題をもとに、リサーチデザインの考案と、介入施策の検討を行う。具体的には、経営課題に関する概念の測定、因果関係の抽出、結果の予測、介入施策のデザインのそれぞれについて、基本的な考え方と機械学習を含む分析手法について学習する。これらの内容を踏まえ、受講者は自身の考案したリサーチデザインをもとにデータを構築・分析し、創造的かつインパクトをもたらす意思決定案を提示することを目指す。	講義16時間 演習6.75時間
		技術経営論	技術経営論とは、「技術を中心とした経営戦略論」であり「イノベーション・マネジメント」とも呼ばれている。研究・技術開発の成果をサービスやプロダクトとして製品化し、市場に投入し、幅広い顧客に受け入れられるようにする中で、競合他社との激しい競争に勝ち残るには、戦略的なマネジメントが必要不可欠であり、その中で技術が大きな役割を果たす場合がある。本講義では、研究開発のマネジメントに関わる基礎的な内容を事例と共に解説し、技術経営におけるデータ分析の活用についても論じる。	
		マーケティングサイエンス	本講義では、様々なマーケティング課題に対して、データを用いて解決するための統計学的方法論について説明する。マーケティング分野では、購買履歴データ、Web閲覧データ、SNSデータ、広告配信とコンバージョンに関するデータ、消費者調査データなど多くのデータが扱われる。これらの多岐にわたるデータから、消費者の行動を科学的に読み解くことは、ビジネスの現場において非常に重要とされる。本講義では、マーケティング理論で身に付けた知識を用いつつ、回帰分析を用いた消費者反応モデル、因子分析や潜在クラスモデルを用いたSTPアプローチ、コンジョイント分析を用いた新製品開発、状態空間モデルを用いた広告効果測定手法などについて、統計学的方法論の理解と、ソフトウェアを用いた実際のデータへの適用能力を育むことを目的とする。	講義16時間 演習6.75時間
		先端情報システム論	本授業科目では、情報システムにおいて革新的な変化をもたらす、フィンテック等数多くのイノベーションの原動力となった先端的な情報システム、特にブロックチェーンによる分散台帳技術について論じる。分散台帳技術とは、ネットワークに参加する複数ノード間でのデータベース（台帳）の共有に用いられる技術であり、ブロックチェーンはその実現手法の一つである。分散台帳は情報システムの基盤として考えられ、その応用範囲は幅広く、DX（デジタルトランスフォーメーション）などを含む。本講義では、ブロックチェーンによる分散台帳の仕組みを理解し、そのビジネス・イノベーションとの関係について教える。分散台帳技術の発展の歴史と活用事例を学んだ後、分散台帳の基礎（モデル化、合意形成、暗号理論）を学ぶ。その後、演習形式により、ブロックチェーンの一種であるEthereumを用いたアプリケーションの実装を行うことで、分散台帳を用いたサービス創出のための知見を得る。	講義11.4時間 演習11.4時間
		空間・不動産データ分析	不動産は土地・建物から構成され、不均一性が強く、かつ空間的な違いによって価値が差別化されるという特性を持つ。そのために、不動産市場の計量経済分析では、多様な特徴量に配慮するだけでなく、地理的特性を考慮していくことが求められる。本講義では、不動産市場を説明する経済理論を理解し、不動産の価値を測定していくための統計的手続きを、空間特性を考慮した計量経済学的接近法として習得することを目的とする。一連の講義を通じて、地理情報システムなどの分析技術と計量分析の手続きなど、空間解析および機械学習の基礎的な技術を融合させることができるようになる。	講義11.4時間 演習11.4時間
		金融市場データ分析	本授業は、統計学・時系列分析の基礎から始め、その後は資産価格のボラティリティに注目し、GARCHモデルやStochastic Volatilityモデルなどのボラティリティ変動モデルや、資産価格の高頻度データから計算するRealized Volatilityとその変動を表すモデル、オプション価格から計算するインプライドボラティリティ、分散リスクプレミアムなどについて講義し、演習を行う。演習にはRを用いる。	講義16時間 演習6.75時間

社会科学科目 (社会課題解決科目)	エビデンスに基づく科学技術政策	科学技術政策の歴史的経緯と現状について日本の事例と米国および欧州の事例を通じて概観する。また、現在進展が進むエビデンスに基づく政策立案や政策評価の考え方について学び、それを科学技術政策について適用するための方法論およびデータ解析手法について具体例に基づいて学ぶ。実際に、日本政府の行政事業データや大学の研究活動に関するデータを利用した分析を行い、施策立案を行う。その成果は、行政事業レビューを行う専門家や現職の行政官による評価によるフィードバックを受ける。	講義16時間 演習6.75時間
	長期経済統計と日本経済のデータ分析	一橋大学経済研究所では、1960～80年代に刊行された『長期経済統計』(全14巻)、それを継承する形で1998年以降刊行を進めている『アジア長期経済統計』(全12巻予定)など、経済学会全体の知的財産とも言うべき長期経済統計の整備を行い、データベース化している。本講義では、こうした日本およびアジアの長期経済統計を用いたデータ分析とその結果について解説した後、学生にこれらのデータを用いてデータ分析を行ってもらおう。	講義16時間 演習6.75時間
	計量政治学	計量政治学とは、政治現象を統計的手法によって研究する学問である。本講義では、計量政治学について、実際の研究例を利用しながら説明する。まず、計量政治学におけるリサーチデザインについて概観する。次に、政治的・社会的制度が有権者や政治家、企業や国家の政治的な行動に与える影響、あるいは、その反対に人々の行動が制度の形成や変化に与える影響を評価するための方法として因果推論について学習する。次に、人々の政治的な考え方や好みといった直接には目に見えない対象をあつかうための測定の方法について学習する。最後に、近年の発展の著しい「ビッグデータ」から興味深いパターンを発見する方法を、特にテキストデータとネットワークデータを中心に学習する。	
	医療データ分析	医療データの分析には、疾患に対する予防、診断、治療に関する新しい方法(医療技術)を開発するものもあれば、医療技術の有効性・安全性、さらに、医療現場や社会での有用性(医療経済性を含む)を評価するものなど、様々な目的・位置づけのものが含まれる。医療データ分析を適切に行ううえで、分析の目的や位置づけを正確に理解することが第一歩であることはいままでもない。本講義では、医療データの収集に関わる法律や倫理規範、予防・診断・治療それぞれの医療技術の開発・評価の枠組み、利用可能なデータリソース、データ収集と分析の基本的な方法について論じる。 【29 松井茂之担当：全7回】 医療データの収集に関わる法律や倫理規範、予防・診断・治療それぞれの医療技術の開発・評価の枠組み、利用可能なデータリソースについての講義を担当する。 【30 山下智志担当：全7回】 医療データの収集と分析の基本的な方法についての講義を担当する。 (全13回のうち最初の1回は松井・山下両名が担当する)	オムニバス方式
	持続的発展のためのデータ分析	このコースではまず、SDGsについての背景、概要、策定、今までの議論について学んだのち、SDGsがどのような形で実践されているか、またその実践プロセスに科学技術イノベーションがどのように関わっているのかを幾つかの国内外の事例やデータ分析から明らかにする。学生個人もしくはグループで、SDGsの課題を解決するためのプロジェクト案を独自に調べ、発表、議論、(レポートもしくは発表)することから、理解度を評価する。	

統計学 科目	多変量解析	社会の現象を認識し問題を発見・解決するためには、既存の統計データや地域・社会調査により得られた情報を、客観的に分析し解釈することが重要となる。本科目では、講義を通して様々な多変量解析の知識を習得するとともに、統計解析ソフトStataまたはRを用いたデータ分析の演習を行う。本科目を通して、①様々な多変量解析の手法間の関係性を大まかに理解できるようになること、②実データに対して適切な分析手法を選択し、統計ソフトを使うことで分析を実行できるようになること、③推計された結果を解釈し表現することが出来るようになること、を目指す。	講義13.5時間 演習9.25時間
	ノンパラメトリック分析	特定の分布によらない統計手法に基づくノンパラメトリック解析、特に、ノンパラメトリック検定の理論を理解し、実践を行うことを目的とする。具体的には、正規母集団を想定した母平均、母分散に関する検定方法の非正規性の影響とノンパラメトリック分析方法の必要性を学び、順位に基づく検定方法として、ウィルコクソンの符号付順位検定、マン・ホイットニーのU検定、アンサリ・ブラッドレイ検定、コルモゴロフスミルノフ検定、クラスカル・ウォリス検定の考え方を学ぶ。また、統計処理ソフトRによる演習を行う。	講義13.5時間 演習9.25時間
	質的データ分析	質的データの分析に用いられる離散選択モデルの推定法を理解することを目的とする。近年、製品等の総量だけでなく、それを構成する製品等の細かい質的な違いが記録されるようになってきている。この授業では、そのようなデータの分析に用いられる離散選択モデルの推定法を学ぶ。具体的な内容は以下の通り。線形確率モデルの推定、ロジットモデルの推定、プロビットモデルの推定、固定効果、ランダム効果モデルの推定、シミュレーション推定、サンプル選択モデルの推定、政策効果の分析。	講義16時間 演習6.75時間
	時系列分析	この講義では、時間に沿って観測される時系列データの分析方法について学習する。独立同一分布に従うデータとは異なり、時系列データは一般的に系列相関を伴うため、特別な取り扱いが必要となる。まず時系列データを特徴付ける定常性の概念を導入し、代表的な定常時系列モデルである自己回帰 (AR) モデル・移動平均 (MA) モデル・ARMAモデルについて、それらの統計的性質や推定方法を学習する。さらに多変量時系列データのためのベクトル自己回帰 (VAR) モデルを学習する。最後に、非定常時系列モデルの例として、単位根のあるARモデルに関する問題とその検定方法について説明する。	
情報・AI 科目	ベイズ統計学Ⅱ	本講義では、「ベイズ統計学Ⅰ」での学習内容に基づき、より実践的なモデルや統計手法とそれらの運用を学習していく。前半では、重要な推定手法であるマルコフ連鎖モンテカルロ法をはじめ、基本的なモデル群と関連する統計手法の解説を行う。後半では、機械学習で重要であるベイジアン・ノンパラメトリクスやガウス過程、変分ベイズについて手法と実際の運用を中心に学習していく。近年のベイズ深層学習の進展についても解説する。	講義16時間 演習6.75時間
	認知科学	認知科学は、人間を感覚器からの入力を受けて、脳での計算処理を経たのち、意思決定として出力する一つの情報処理機械とみなし、その計算処理を明らかにすることを目的とする学問である。また、人間のような情報処理の実現を目指す人工知能とは、相互に補完し合い、発展してきた。この授業では認知科学の全体像を概観し、情報処理や知能についての視野を広げ、人間や社会を情報科学的に理解する方法を学ぶことを目的とする。	
	機械学習理論	機械学習手法の適切な使用や、新手法の開発のためには、その理論的な側面を理解することが有用である。本講義は、機械学習手法の統計的、情報論的、幾何学的、力学的性質を学び、機械学習の理論的な理解を深めることを目的とする。アルゴリズムと実践的機械学習Iを履修済みであることを推奨する。	

	自然言語処理	自然言語処理とは計算機を用いて人間の使う言語を処理する方法について扱う分野であり、ソーシャルデータの解析をはじめとするデータサイエンスのさまざまな応用や人工知能の研究開発で広く活用されている。 この授業では、言語データがどのように処理されるのかの理論を学び、SNSなど、ウェブ上の日本語及び英語のデータを扱い、実際のプログラミングを行う。実践的機械学習Iを履修済みであることを推奨する。	講義11.4時間 演習11.4時間
	情報・サイバーセキュリティ	ITやIoT(モノのインターネット)が世界に広がり浸透する中で、情報セキュリティに関わる問題は深刻さが増すと同時に、企業や個人の生活において身近な問題となっている。ウイルスプログラムのみならず、無線通信の盗聴や、不正送金を目的としたマルウェアなどの新たな脅威も発生している。本科目の前半では、これらセキュリティ上の脅威に関する基礎知識と対応策について学習する。後半では、実際にパソコンやスマートフォンを利用するにあたって気をつけるべき事項について、具体的な事例を基にしたセキュリティ対策の修得を目指す。 【37 宇根正志担当：全7回】 セキュリティ上の脅威に関する基礎知識（1～4回）及びスマートフォンや機械学習におけるセキュリティ応用（11～13回） 【38 田村（浦）裕子担当：全6回】 暗号理論などのセキュリティ対策技術（5～7回）及びセキュリティ応用技術（8～10回）	オムニバス方式
	画像処理	画像処理はカメラ等の撮影機器を通して得られたデジタル画像から、計算機による実世界情報の理解を得るために欠かせない技術である。近年の人工知能技術の高度化により、これらの技術は一層注目を集めているが、その歴史は古く、1970年代初頭に端を発する。本講義は、伝統的なデジタル画像の補正・認識・生成の技術から最新の深層学習法に至るまで、その技術的背景の理解ならびにプログラミングを通じた表現方法の習得を目的とする。	講義16時間 演習6.75時間
	応用人工知能	近年、人工知能は様々な分野に応用されている。この授業では、ゲームへの応用、医療への応用、脳科学への応用など様々な事例を学ぶ。また、いくつかの例については実装まで行うことで、実際の応用における「問題設定の方法」、「データの取り扱い」や「アルゴリズムの選択方法」などを実践的に学ぶ。	講義13.5時間 演習9.25時間
P B L 演 習 科 目	P B L 演習 A	現代においては組織がデータを活用し、その分析を通じて付加価値の向上や新しいサービスの創出を行うことが求められている。その実践において、授業や演習で獲得した知識を実際の課題解決に適用する手法を学ぶ必要がある。本講義では、外部機関（自社データを分析する企業等）との連携の下、問題意識やデータの提供を受け、具体的課題とそれを解決するための方法の設定、データ分析、分析結果からの含意の抽出、含意を現実社会で活用するためのプレゼンテーションの実施をチームで行う。具体的課題とそれを解決するための方法の設定、データ分析、分析結果からの含意の抽出、含意を現実社会で活用するためのプレゼンテーションの実施を通じて、分析スキルの定着、チームワーク、プレゼンテーション能力の養成を行うとともに、社会科学とデータサイエンスの知識を融合させ、ビジネスの革新と社会課題の解決に対する方策を提案・実行できる能力を身に付ける。	
	P B L 演習 B	現代においては組織がデータを活用し、その分析を通じて付加価値の向上や新しいサービスの創出を行うことが求められている。その実践において、授業や演習で獲得した知識を実際の課題解決に適用する手法を学ぶ必要がある。本講義では、外部機関（データ分析を業として行う企業等）との連携の下、問題意識やデータの提供を受け、具体的課題とそれを解決するための方法の設定、データ分析、分析結果からの含意の抽出、含意を現実社会で活用するためのプレゼンテーションの実施をチームで行う。具体的課題とそれを解決するための方法の設定、データ分析、分析結果からの含意の抽出、含意を現実社会で活用するためのプレゼンテーションの実施を通じて、分析スキルの定着、チームワーク、プレゼンテーション能力の養成を行うとともに、社会科学とデータサイエンスの知識を融合させ、ビジネスの革新と社会課題の解決に対する方策を提案・実行できる能力を身に付ける。	

P B L 演習 C	現代においては組織がデータを活用し、その分析を通じて付加価値の向上や新しいサービスの創出を行うことが求められている。その実践において、授業や演習で獲得した知識を実際の課題解決に適用する手法を学ぶ必要がある。本講義では、外部機関（政策の企画・研究などを行う各種公的機関）との連携の下、問題意識やデータの提供を受け、具体的課題とそれを解決するための方法の設定、データ分析、分析結果からの含意の抽出、含意を現実社会で活用するためのプレゼンテーションの実施をチームで行う。具体的課題とそれを解決するための方法の設定、データ分析、分析結果からの含意の抽出、含意を現実社会で活用するためのプレゼンテーションの実施を通じて、分析スキルの定着、チームワーク、プレゼンテーション能力の養成を行うとともに、社会科学とデータサイエンスの知識を融合させ、ビジネスの革新と社会課題の解決に対する方策を提案・実行できる能力を身に付ける。	
P B L 演習 D	現代においては組織がデータを活用し、その分析を通じて付加価値の向上や新しいサービスの創出を行うことが求められている。その実践において、授業や演習で獲得した知識を実際の課題解決に適用する手法を学ぶ必要がある。本講義では、外部機関（自社データを分析する企業等）との連携の下、問題意識やデータの提供を受け、具体的課題とそれを解決するための方法の設定、データ分析、分析結果からの含意の抽出、含意を現実社会で活用するためのプレゼンテーションの実施をチームで行う。具体的課題とそれを解決するための方法の設定、データ分析、分析結果からの含意の抽出、含意を現実社会で活用するためのプレゼンテーションの実施を通じて、分析スキルの定着、チームワーク、プレゼンテーション能力の養成を行うとともに、社会科学とデータサイエンスの知識を融合させ、ビジネスの革新と社会課題の解決に対する方策を提案・実行できる能力を身に付ける。	
P B L 演習 E	現代においては組織がデータを活用し、その分析を通じて付加価値の向上や新しいサービスの創出を行うことが求められている。その実践において、授業や演習で獲得した知識を実際の課題解決に適用する手法を学ぶ必要がある。本講義では、外部機関（データ分析を業として行う企業等）との連携の下、問題意識やデータの提供を受け、具体的課題とそれを解決するための方法の設定、データ分析、分析結果からの含意の抽出、含意を現実社会で活用するためのプレゼンテーションの実施をチームで行う。具体的課題とそれを解決するための方法の設定、データ分析、分析結果からの含意の抽出、含意を現実社会で活用するためのプレゼンテーションの実施を通じて、分析スキルの定着、チームワーク、プレゼンテーション能力の養成を行うとともに、社会科学とデータサイエンスの知識を融合させ、ビジネスの革新と社会課題の解決に対する方策を提案・実行できる能力を身に付ける。	
P B L 演習 F	現代においては組織がデータを活用し、その分析を通じて付加価値の向上や新しいサービスの創出を行うことが求められている。その実践において、授業や演習で獲得した知識を実際の課題解決に適用する手法を学ぶ必要がある。本講義では、外部機関（政策の企画・研究などを行う各種公的機関）との連携の下、問題意識やデータの提供を受け、具体的課題とそれを解決するための方法の設定、データ分析、分析結果からの含意の抽出、含意を現実社会で活用するためのプレゼンテーションの実施をチームで行う。具体的課題とそれを解決するための方法の設定、データ分析、分析結果からの含意の抽出、含意を現実社会で活用するためのプレゼンテーションの実施を通じて、分析スキルの定着、チームワーク、プレゼンテーション能力の養成を行うとともに、社会科学とデータサイエンスの知識を融合させ、ビジネスの革新と社会課題の解決に対する方策を提案・実行できる能力を身に付ける。	

演習科目	主ゼミナール	<p>(3年次) 学生が主体となって、自らが関心のある専門的なテーマを設定・分析・考察・発表・議論できるスキルを身に付けることを目的とする。担当教員の専門分野(統計、情報・AI、社会科学など)を中心としたテーマについて、社会科学とデータサイエンスの融合領域に関する先行研究・研究成果の把握を通じて、「社会科学とデータサイエンスの複眼的観察力を身に付けること」を到達目標に演習を行う。3年次の後半には、それまでの演習を前提に、担当教員の専門分野(統計、情報・AI、社会科学など)について、発表とディスカッションを通して学ぶ。社会科学とデータサイエンスの融合領域に関する先行研究・研究成果の把握を通じて、「テーマに合わせて社会科学とデータサイエンスの専門的知識と考え方を組み合わせること」を到達目標に演習を行う。</p> <p>(4年次) 3年次のゼミナールや他の専門科目の学修で培ったソーシャル・データサイエンスに関する専門知識に基づき、学生が主体となって、自らが関心のある専門的なテーマを設定・分析・考察・発表・議論できるスキルとともに、社会科学とデータサイエンスの知識を融合させ、ビジネスの革新と社会課題の解決に対する方策を提案・実行できる能力を身に付けることを目的とする。担当教員の専門分野(統計、情報・AI、社会科学など)について、これまでに学んだ専門的知識、考え方、方法論等のほか、先行研究を踏まえ、「自らの問題意識に基づいた本格的な論文を作成するための、「研究テーマの設定」と、「データの収集」「データの分析方法」や、「考察を進める方法論」を行えること」を到達目標に演習を行う。さらに、自らの問題設定をし、論理的に解決する力を伸ばし、客観的な視点から情報を統合して分析する能力を磨くために、その成果を学士論文としてまとめる。</p> <p>なお、担当教員の専門分野については以下のとおりである。</p> <p>01_渡部 敏明：時系列モデルを用いて資産価格とボラティリティの計量分析を行う。</p> <p>02_七丈 直弘：科学技術動向や科学技術イノベーション政策に関するデータ分析と考察を行う。</p> <p>03_清水 千弘：都市・不動産のビッグデータを用いた計量分析を行う。</p> <p>04_福田 玄明：人間の知覚、意思決定における情報処理に関するデータ処理および計算論的モデル化を行う。</p> <p>05_今井 晋：労働経済学、産業組織論、マーケティング、貿易論の実証研究</p> <p>06_鈴木 真介：人間行動のモデリングとシミュレーションに関する研究</p> <p>07_檜山 敦：超高齢社会をリ・デザインするDXに関する実証研究</p> <p>08_寺田 麻佑：行政過程と行政組織、行政法、先端技術と法に関する比較法政策研究</p> <p>09_小町 守：機械学習を用いた自然言語処理に関する研究</p> <p>10_植松 良公：大規模データの分析手法の提案、理論構築とその応用</p> <p>11_城田 慎一郎：ベイズ統計・モデリングに関する手法理解とその応用</p> <p>12_加藤 諒：(ベイズ)統計学を用いたマーケティングモデルに関する研究</p> <p>13_本武 陽一：機械学習手法や統計的手法等を用いたデータ駆動科学に関する研究</p> <p>14_谷田川 達也：画像や立体形状データ等の視覚メディアを用いた計算機援用技術に関する研究</p> <p>15_勝又 裕斗：政治学における実証研究および実証分析のための方法論の開発</p> <p>16_櫻 淳志：情報アクセス技術に関する研究</p> <p>17_永山 晋：組織の創造性、ウェルビーイング、概念に関する実証研究</p> <p>18_清家 大嗣：分散システムを用いた情報システムの分析、産業および行政での利活用に関する研究</p>
------	--------	---

	副ゼミナール	<p>(3年次) 学生が主体となって、自らが関心のある専門的なテーマを設定・分析・考察・発表・議論できるスキルを身に付けることを目的とする。担当教員の専門分野(統計、情報・AI、社会科学など)を中心としたテーマについて、社会科学とデータサイエンスの融合領域に関する先行研究・研究成果の把握を通じて、「社会科学とデータサイエンスの複眼的観察力を身に付けること」を到達目標に演習を行う。3年次の後半には、それまでの演習を前提に、担当教員の専門分野(統計、情報・AI、社会科学など)について、発表とディスカッションを通して学ぶ。社会科学とデータサイエンスの融合領域に関する先行研究・研究成果の把握を通じて、「テーマに合わせて社会科学とデータサイエンスの専門的知識と考え方を組み合わせること」を到達目標に演習を行う。</p> <p>(4年次) 3年次のゼミナールや他の専門科目の学修で培ったソーシャル・データサイエンスに関する専門知識に基づき、学生が主体となって、自らが関心のある専門的なテーマを設定・分析・考察・発表・議論できるスキルとともに、社会科学とデータサイエンスの知識を融合させ、ビジネスの革新と社会課題の解決に対する方策を提案・実行できる能力を身に付けることを目的とする。担当教員の専門分野(統計、情報・AI、社会科学など)について、これまでに学んだ専門的知識、考え方、方法論等のほか、先行研究を踏まえ、「自らの問題意識に基づいた本格的な論文を作成するための、「研究テーマの設定」と、「データの収集」「データの分析方法」や、「考察を進める方法論」を行えること」を到達目標に演習を行う。</p> <p>なお、担当教員の専門分野については以下のとおりである。</p> <p>01_渡部 敏明：時系列モデルを用いて資産価格とボラティリティの計量分析を行う。</p> <p>02_七丈 直弘：科学技術動向や科学技術イノベーション政策に関するデータ分析と考察を行う。</p> <p>03_清水 千弘：都市・不動産のビッグデータを用いた計量分析を行う。</p> <p>04_福田 玄明：人間の知覚、意思決定における情報処理に関するデータ処理および計算論的モデル化を行う。</p> <p>05_今井 晋：労働経済学、産業組織論、マーケティング、貿易論の実証研究</p> <p>06_鈴木 真介：人間行動のモデリングとシミュレーションに関する研究</p> <p>07_檜山 敦：超高齢社会をリ・デザインするDXに関する実証研究</p> <p>08_寺田 麻佑：行政過程と行政組織、行政法、先端技術と法に関する比較法政策研究</p> <p>09_小町 守：機械学習を用いた自然言語処理に関する研究</p> <p>10_植松 良公：大規模データの分析手法の提案、理論構築とその応用</p> <p>11_城田 慎一郎：ベイズ統計・モデリングに関する手法理解とその応用</p> <p>12_加藤 諒：(ベイズ)統計学を用いたマーケティングモデルに関する研究</p> <p>13_本武 陽一：機械学習手法や統計的手法等を用いたデータ駆動科学に関する研究</p> <p>14_谷田川 達也：画像や立体形状データ等の視覚メディアを用いた計算機援用技術に関する研究</p> <p>15_勝又 裕斗：政治学における実証研究および実証分析のための方法論の開発</p> <p>16_樺 淳志：情報アクセス技術に関する研究</p> <p>17_永山 晋：組織の創造性、ウェルビーイング、概念に関する実証研究</p> <p>18_清家 大嗣：分散システムを用いた情報システムの分析、産業および行政での利活用に関する研究</p>
--	--------	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

国立大学法人一橋大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
一橋大学				一橋大学				
商学部				商学部				
経営学科	137	-	548	経営学科	<u>129</u>	-	<u>516</u>	定員変更 (△8)
商学科	138	-	552	商学科	<u>129</u>	-	<u>516</u>	定員変更 (△9)
経済学部				経済学部				
経済学科	275	-	1,100	経済学科	<u>258</u>	-	<u>1,032</u>	定員変更 (△17)
法学部				法学部				
法律学科	170	-	680	法律学科	<u>159</u>	-	<u>636</u>	定員変更 (△11)
社会学部				社会学部				
社会学科	235	-	940	社会学科	<u>220</u>	-	<u>880</u>	定員変更 (△15)
				<u>ソーシャル・データサイエンス学部</u>				学部の設置 (意見伺い)
				<u>ソーシャル・データサイエンス学科</u>	<u>60</u>	-	<u>240</u>	
計	955	-	3,820	計	955	-	3,820	
一橋大学大学院				一橋大学大学院				
経営管理研究科				経営管理研究科				
経営管理専攻(M)	159	-	318	経営管理専攻(M)	159	-	318	
経営管理専攻(D)	26	-	78	経営管理専攻(D)	<u>23</u>	-	<u>69</u>	定員変更 (△3)
国際企業戦略専攻(D)	4	-	12	国際企業戦略専攻(D)	4	-	12	
国際企業戦略専攻(P)	58	-	116	国際企業戦略専攻(P)	58	-	116	
経済学研究科				経済学研究科				
総合経済学専攻(M)	82	-	164	総合経済学専攻(M)	82	-	164	
総合経済学専攻(D)	22	-	66	総合経済学専攻(D)	<u>20</u>	-	<u>60</u>	定員変更 (△2)
法学研究科				法学研究科				
法学・国際関係専攻(M)	15	-	30	法学・国際関係専攻(M)	15	-	30	
法学・国際関係専攻(D)	26	-	78	法学・国際関係専攻(D)	<u>24</u>	-	<u>72</u>	定員変更 (△2)
ビジネスロー専攻(M)	36	-	72	ビジネスロー専攻(M)	36	-	72	
ビジネスロー専攻(D)	12	-	36	ビジネスロー専攻(D)	<u>11</u>	-	<u>33</u>	定員変更 (△1)
法務専攻(P)	85	-	255	法務専攻(P)	85	-	255	
社会学研究科				社会学研究科				
地球社会研究専攻(M)	20	-	40	地球社会研究専攻(M)	20	-	40	
地球社会研究専攻(D)	6	-	18	地球社会研究専攻(D)	<u>5</u>	-	<u>15</u>	定員変更 (△1)
総合社会科学専攻(M)	70	-	140	総合社会科学専攻(M)	70	-	140	
総合社会科学専攻(D)	35	-	105	総合社会科学専攻(D)	<u>32</u>	-	<u>96</u>	定員変更 (△3)
言語社会研究科				言語社会研究科				
言語社会専攻(M)	49	-	98	言語社会専攻(M)	49	-	98	
言語社会専攻(D)	21	-	63	言語社会専攻(D)	<u>19</u>	-	<u>57</u>	定員変更 (△2)
国際・公共政策教育部				国際・公共政策教育部				
国際・公共政策専攻(P)	55	-	110	国際・公共政策専攻(P)	55	-	110	
				<u>ソーシャル・データサイエンス研究科</u>				研究科の設置 (意見伺い)
				<u>ソーシャル・データサイエンス専攻(M)</u>	<u>21</u>	-	<u>42</u>	
計	781	-	1,799	計	788	-	1,799	